

令和3年度 かいじあむ古文書講座 第3回

かいじあむ古文書講座

若尾逸平に関する古文書

を読む

若尾逸平

時
年
九
十
有
歲
迎
之
為
病
上

令和3年6月26日（土）

山梨県立博物館 小畑茂雄

若尾逸平さんについて

さて、今回の講座の対象の
若尾逸平さんですが、こ
んな人物です。

文政三年（一八二〇）十二月六日生まれ
（※太陽暦に換算すると一八二一年一月九日に相当。）



伝記『若尾逸平』より

甲斐国巨摩郡在家塚村（現在の南アルプス市）の村役人若尾林右衛門（二代）の次男として誕生後、間もなく生母と死別。長兄林平（三代林右衛門）、継母に産まれた弟幾造と妹千代の四人きょうだい。

若尾逸平の生涯（数え年表記）

1歳 12月6日生まれる。

2歳 生母きの死去。

19歳 剣客を目指して江戸へ上る。

父の願いで地元に戻る

22歳 行商をはじめめる。

28歳 小笠原村の若松屋に婿入り。



34歳 離婚して生家に帰る。

36歳 甲府八日町で再出発。

38歳 細田はつと再婚する。

39歳 弟幾造を商人に勧誘する。

40歳 横浜での商売をはじめめる。

伝記『若尾逸平』より

若尾逸平の生涯 ②

43 歳 若尾機械を考案し製糸工場開業。

49 歳 町名主格となる。

50 歳 製糸業を廃し、山田町に転居。

53 歳 大小切騒動で焼き討ちに遭う。

55 歳 興益社設立に参加する。

57 歳 財産分与を行う。



伝記『若尾逸平』より

58 歳 一蓮寺県会の議員となる。

61 歳 明治天皇巡幸に際して拝謁する。

63 歳 価値下落の紙幣を大量借り入れ。

63 歳 第十国立銀行から栗原信近を追放。

66 歳 山梨県第一の地主へ成長。

若尾逸平の生涯 ③

68 歳 甲信鉄道計画に参加する。

70 歳 甲府市初代市長に就任する。

71 歳 貴族院多額納税者互選議員に就任。

74 歳 若尾銀行設立。

75 歳 家督を養子民造に譲る。

77 歳 東京電燈の株式買い占め。



伝記『若尾逸平』より

81 歳 開国橋架橋に寄附金。

82 歳 妻はつ死去。

88 歳 長禅寺に墓所を建てる。

愛宕山に寿像が有志に建てられる。

94 歳 大正2年9月7日逝去。

五十の手習い

君幼年家道の頽零を享て、十分の学事を修するを得ず。壮歳以後は又多事にして、之を修するに違ちがあらざりしが、年五十歳に至り初て家政整頓し、小事は托するに人あるを以て文学に志し、**閑あれば則ち書を読み字を書し、**自から楽と為すに及にべり。就中、書は唐宋の古法帖を集めて之を学べり。故に気韻きいん遒勁しゅうけい冒す可からざるの達書にして、人之を求る者も亦少からずと。**年五十にして学に志ざす、**亦超凡の所あるを知るべし。

『山梨県人物誌 初編』（明治二十二年 平野文著）より
国立国会図書館・山梨県立博物館（大木家文書）蔵

七十の手習い？

翁於いて七十歳となるや、倩々
惟へらく、人間七十古来稀れな
りといふも余已に其齡に達し、
而して今後尚寿なるを得るは疑
無し、既に財に於て望を遂げた
れば一として遺憾なきも、心に
慊らぬは幼少より学問せざりし
事なり、いでや是より一字なり
とも覚ゆることとせんと、老心
此に奮ひて其翌日より手習道具
を買調へ、いろはより習ひ始め
ぬ。翁の意志の鞏固なる何事も
実行を主としたれば、独り此習
字に於てのみ非凡を見るにあら
ざれども、当時猶ほ実業経営多
忙にして席暖かなるの違なかり
しと雖も、特に習字を以て貴重
なる日課となし、毎日規則的に
実行し、先づ一日に習ふ字は多
き時は四枚折の唐紙百枚、少な
き時は四十枚と定め、**平均一日
の習字数二千五百字内外**を違へ
たる事なし。

八十の手習い？

若尾の老人ほどの手蹟は、強ち世間に珍らしくも有るまいが、アノ高齡になつてから手習ひした一事は滅多に類例が得られない、老人が手習ひを始めたのは、世事を民造君に譲て、店の方一切を関はぬやうになつてからで、ヤ、**八十に手の届く頃から**だ、隠居所の二階に端座し、嘗て金儲に肺肝を碎いたと同一の苦心と精力とを以て琉球唐紙へセツセと臨摸したものだ。

『嗜好百種』（明治四十三年 服部太喜弥（大夢）著）より
国立国会図書館・山梨県立博物館（赤岡重樹旧蔵資料）蔵

これら伝記のエピソードは誇張もありませんが、若尾の老いてもなおの向学心や、高齡に及んで書を良くしたことが分かります。

九十の手習い

九十歳に差し掛かった最晩年に習字に取り組む若尾のすがたです。

まさしく字を記すことは若尾にとってライフワークとなっており、現在でも数多くの書簡や作品が残されています。



書齋の若尾翁



→ 別アングルのすがたを収めた『若尾逸平』（前掲）の巻頭口絵収録写真

若尾逸平扇面



山梨県立博物館蔵

では、実際の若尾の字を実際に読んでみましょう。

余白に解説文を書いてみましょう。

若尾逸平扇面の解読



山梨県立博物館蔵

鶴飛
白
海千秋
福
青松秀
歳
壽山萬
逸齋居士
時年九十有歳
(印)
(印)

余白に解読文を書いてみましょう。

ちよつと癖のある字でしたね。
どんな意味か考えてみましょう。

若尾逸平扇面を解釈する



山梨県立博物館蔵

全部で14文字ですね。七言の漢詩の一節と考えられ、縦書きに直すところになります。

壽山萬歳青松秀

福海千秋白鶴飛

寿山は万歳に青松秀で、福海は千秋に白鶴飛ぶ。とでも読むのでしょうか。

壽山萬

歳

青松秀

福

海千秋

白

鶴飛

逸齋居士

時年九十有歳

(印)

(印)

漢詩を手掛かりに読む①



山梨県立博物館蔵

壽山萬
歳
青松秀
福
海千秋
白
鶴飛
逸齋居士
時年九十有歳
(印)
(印)

著名な詩の一節であれば、仮に全文が読めなくても、解読できた文字列（例えば「寿山万歳」など）をもとに、若尾が使っているような手習いのお手本などをひもといたり、現代であれば**手っ取り早くインターネット**で検索すれば、ひとまず全文の文字を知ることが出来ます。残念ながら、この作品はあまり有名なものではないようです。

漢詩を手掛かりに読む②

「作品」から書かれた文字を解き明かすほか、文章構造から解読していく方法もあります。

壽山萬歳青松秀

福海千秋白鶴飛

色分けのように、この作品は対になる単語で構成されているので、一方で読めない文字があっても、ある程度の類推が可能となっっています。



山梨県立博物館蔵

壽山萬

歳

青松秀

福

海千秋

白

鶴飛

逸齋居士

時年九十有歳

(印)

(印)

漢詩を手掛かりに読む③

「寿山」と「福海」は対になる長寿を祝う言葉です。

・**寿山**【じゅざん】めでたい年、長寿のことを例えて言う。

・**福海**【ふくかい】福が海のように深いさまのことを言う。

いずれも私たちが日常的に使う語彙ではありませんが、**積極的**に辞書を使って調べてみましょう。



山梨県立博物館蔵

壽山萬

歳

青松秀

福

海千秋

白

鶴飛

逸齋居士

時年九十有歳

(印)

(印)

漢詩を手掛かりに読む④



山梨県立博物館蔵

壽山萬
青松秀
福
海千秋
白鶴飛
逸齋居士
時年九十有歲
(印) (印)

「萬歳」と「千秋」も、対になる長い期間を示す言葉です。「萬歳（万歳）」は「ばんざい」とも「ばんざい」とも読め、それぞれに意味を持ってるので、**いろいろな読み方を想定することも必要**となります。「青松」と「白鶴」も色彩を含んでいて長寿を寿ぐ言葉になっています。

漢詩を手掛かりに読む⑤



山梨県立博物館蔵

壽山萬
 歳松秀
 福千秋
 白鶴飛
 逸齋居士
 時年九十有歳
 (印) (印)

この作品では必要がありませ
 でのたが、返読文字がある
 戻つて読む文の字が「押韻」
 どの漢文の「ほかに」がな
 解読に「な」る場合もあ
 いずれにせよ、よく「語彙を調
 する以前に読んで、よく「理
 文章として読む、く「解で
 うに「する」は、どう「いた
 を「し」つ「詰めて、いく
 事「な」ります。

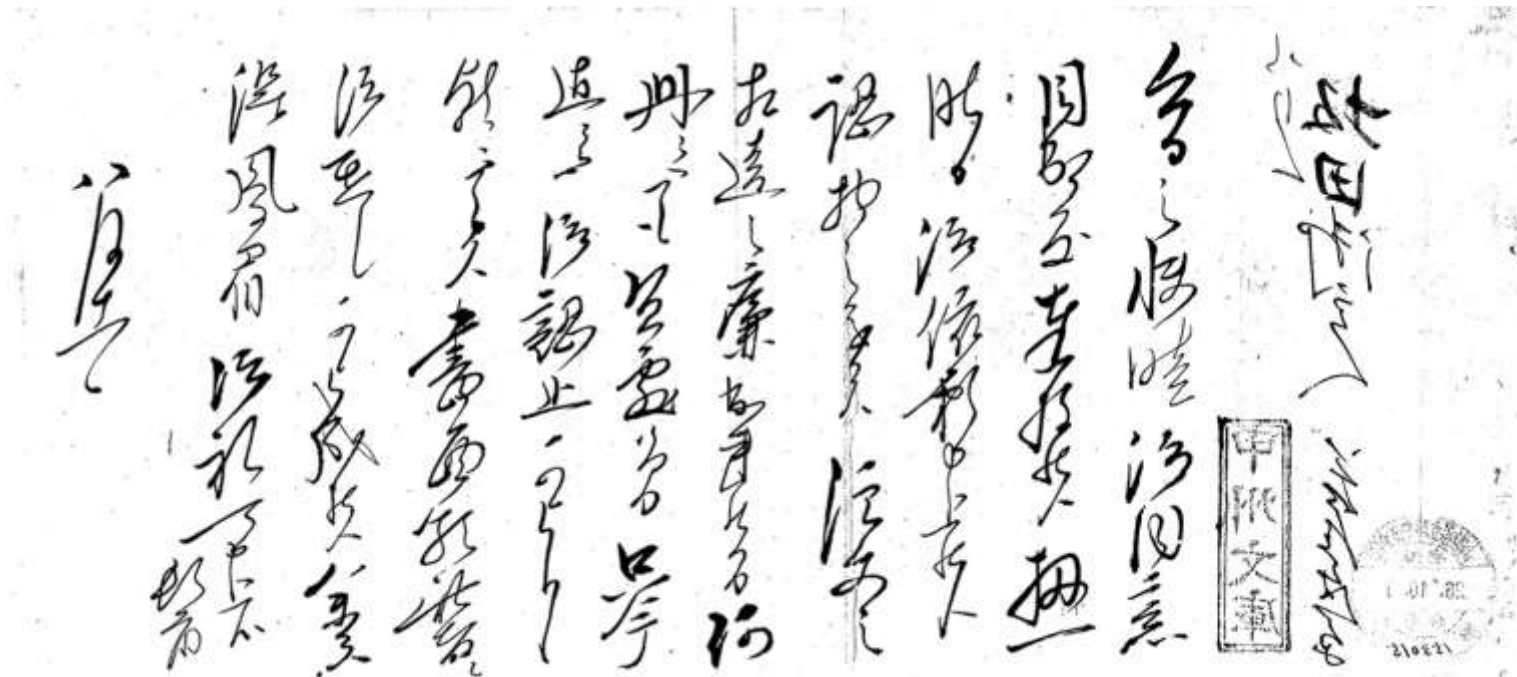
難読の若尾逸平書簡を読む



山梨県立博物館「巨富を動かす」展示室
背景の中央線甲府開業記念式写真に写る緑門上「祝
開通」の扁額は、若尾逸平の揮毫によるもの。

では、若尾逸平が記した書簡を
読んでみましょう。先ほどの扇
面はひとつの作品であり、手習
いを重ねて書家を気取るほどに
至った頃の「作品」とは異なり、
もう少し若い頃の**日常的かつ実
務的な書簡は非常に解読するの
が困難な**ものです。では、**難読**
極まる若尾逸平の書簡を読んで
まいりましょう。

若尾逸平書簡（坂田御主人あて）



かなり癖が強い文字ですね。

若尾逸平書簡の解読案

解読案はこのような感じですか。



今日之快晴御同意

今日之快晴御同意

目出度奉存候、扱一

目出度奉存候、扱一

昨日御依頼申上候

昨日御依頼申上候

認物之義者、注文之

認物之義者、注文之

相違之廉出来候間、何

相違之廉出来候間、何

れ二而も宜敷候間、只今

れ二而も宜敷候間、只今

迄二而御認止可被下候、

迄二而御認止可被下候、

就而者書面願此者二

就而者書面願此者二

御遣し可被成候、余者

御遣し可被成候、余者

得鳳眉御礼可申上候

得鳳眉御礼可申上候

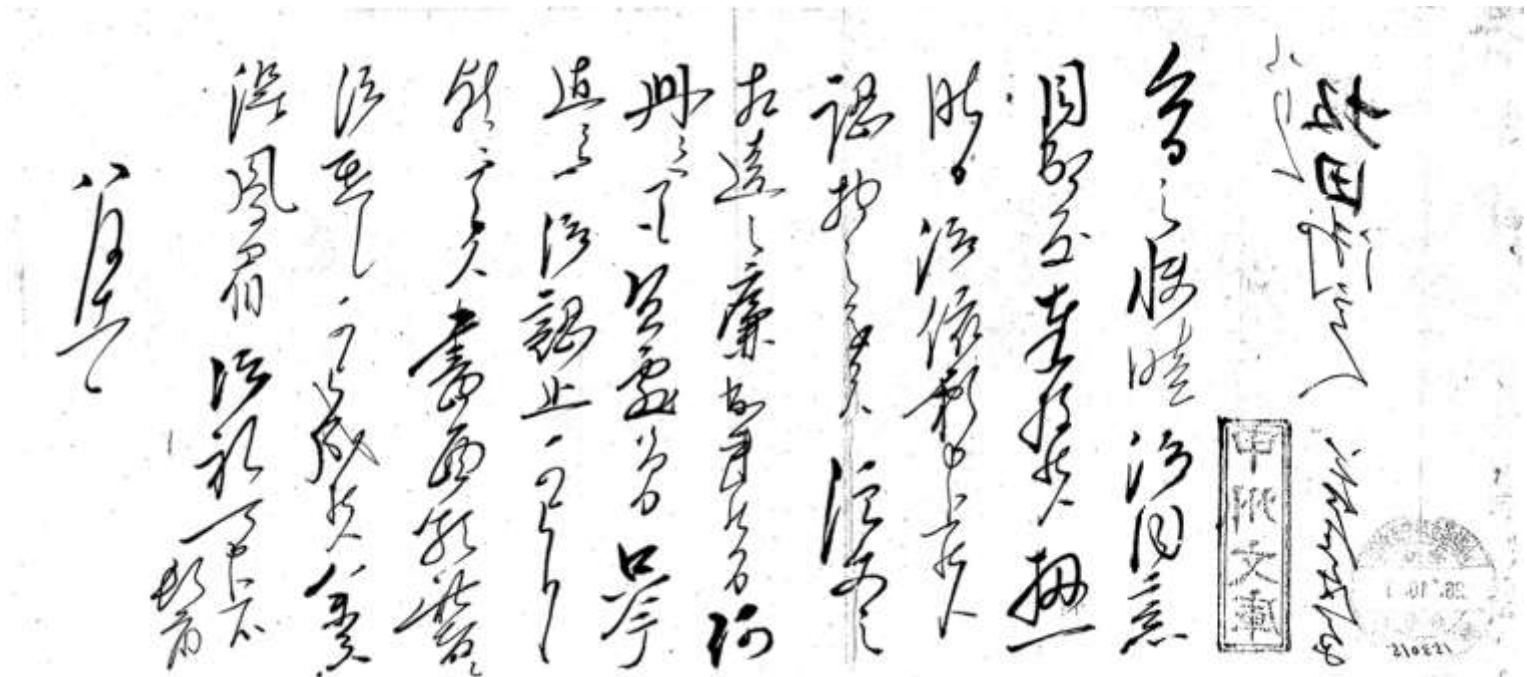
頓首

頓首

八月十一日

若尾逸平書簡の読みくだし

読みくだしは左のとおりです。



今日之快晴御同意
(今日の快晴御同意)

目出度奉存候、扱一
(目出度く存じ奉り候、扱て一)

昨日御依頼申上候
(昨日ご依頼申し上げ候)

認物之義者、注文之
(認め物の義は、注文の)

相違之廉出来候間、何
(相違の廉出来候間、何)

れ二而も宜敷候間、只今
(れにても宜しく候間、只今)

迄二而御認止可被下候、
(迄にて御認め止め下さるべく候、)

就而者書面願此者二
(就ては書面願此の者に)

御遣し可被成候、余者
(お遣わし成さるべく候、余りは)

得鳳眉御礼可申上候
(鳳眉を得て御礼申し上ぐべく候)

頓首

八月十一日

若尾逸平書簡の内容①

では2行ずつ読んでいきましょう。

目、月？

Handwritten Japanese calligraphy. The text is written vertically from right to left. The characters are: 目、月、を、奉、存、候、一、御、同、意。 There are four colored boxes highlighting specific parts: a red box around '目', a yellow box around '月', a green box around '意', and a red box around '目' at the end of the line.

今日之快晴御同意

目出度奉存候、扱一

・快晴 「快」はもとのかたちをある程度保っていますね。「晴」の「青」の「月」は、ここまで言ってきたよりもさらに省略が進んでしまっています。

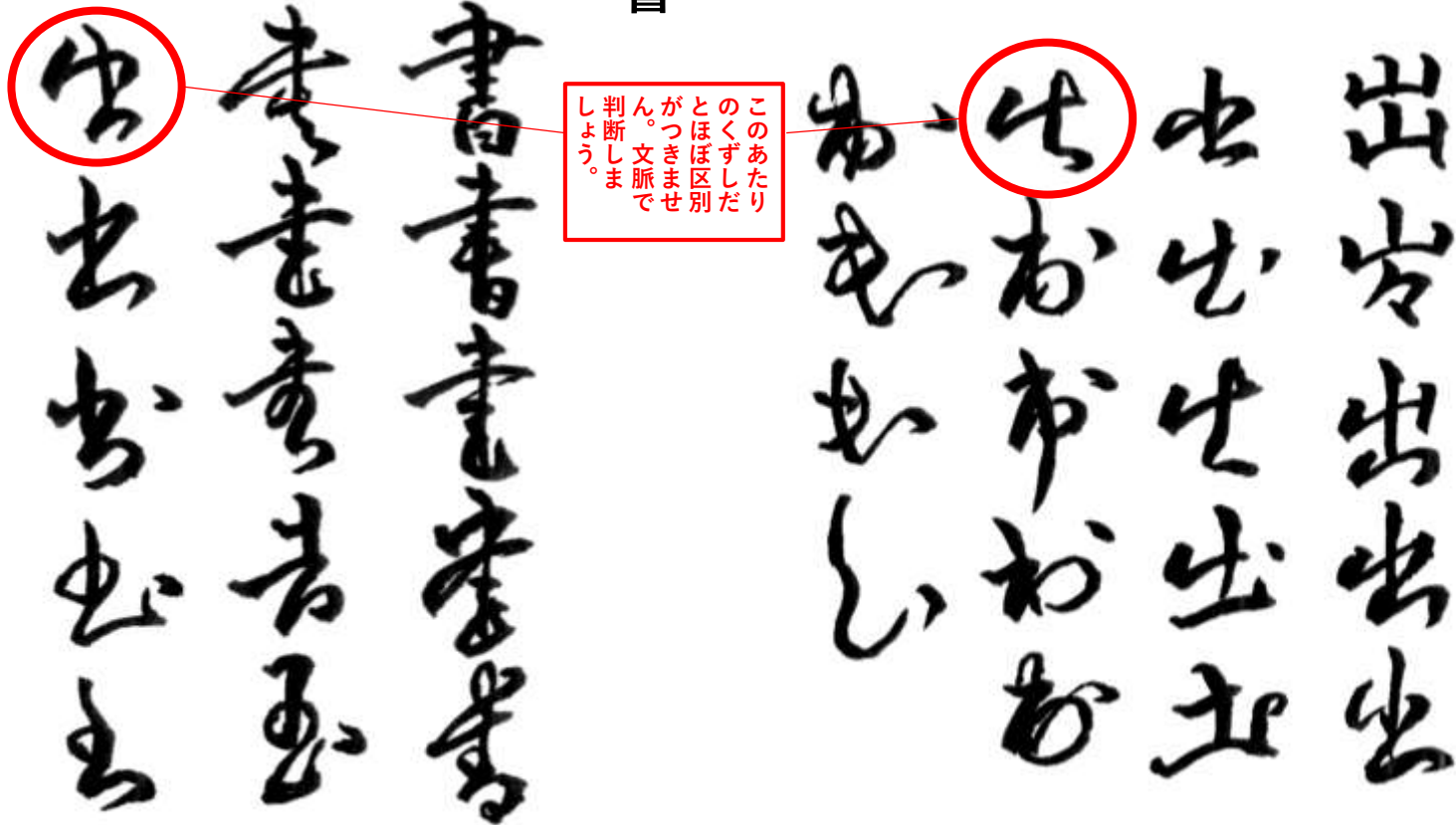
・御同意 「御」と「意」はなんとなく理解できますが、「同」は「目」にも「月」にも見えます。ここでは「意」との組み合わせが可能なもので、「同」と読んでいきましょう。

・目出度 「度」は「广（まだれ）」と「又」だけになります。「出」は「書」のくずしにも似ていて、案外判読しづらい文字です。

似ている「出」と「書」

・
書

・
出



若尾逸平書簡の内容②



今日之快晴御同意

目出度奉存候、扱一

・ **奉存候** (ぞんじたてまつりそうろう)

返読文

字の「奉」の下の「存」は1画目の横棒はかなり省略されているものの、左はらいと「子」がほぼそのままなので、「奉」の後にこのかたちが来たら「存」であるとわかります。

「候」は特徴のある書き方ですが、数多く出て来る文字なので、書簡を通して確認して読んでいきましょう。

・ **扱** (さて) 先ほど指摘したように、

ここから本文の内容に入るところに記される接続詞です。

「候」のパターン

候候候候候
作作候候作
候候候候候
候候候候候
候候候候候

・「候」の用例

今日もまたお天候
今日もまたお天候

・若尾の「候」筆跡

若尾の書く候は○印の用例に近いが、筆の終わり方が異なり、やはり典型的なものとは言いがたい。

若尾逸平書簡の内容③



昨日御依頼申上候

認物之義者、注文之

・ 昨日 「乍」がだいぶくずされてい
ますが、次が「日」であるので「昨」
か「明」だろうと想定できます。よっ
て「乍」か先ほどくずしについて触れ
た「月」との違いに着目します。

・ 依頼 「頼」の「頁」のくずしパ
ターンに着目しましょう。

・ 認物 「認」は言べんのくずし方を
覚えましょう。書き方はほぼ中国語の
簡体字のようになります。「物」は
「勿」の構えのなかの2画はほぼ省略、
牛へんも手へんのようになることが多
いです。

若尾逸平書簡の内容④

昨日御依頼申上候
認物之義者、注文之

昨日御依頼申上候

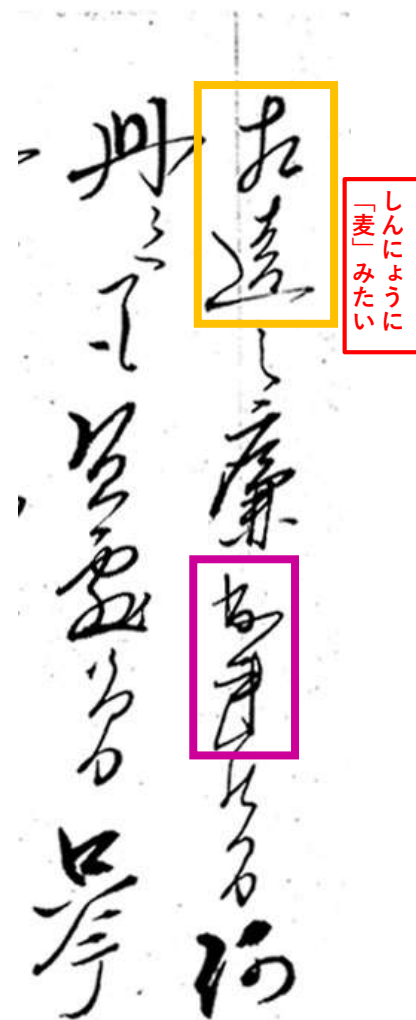
認物之義者、注文之

・義 「義」も「○○の件」のような意味でよく使われます。「羊」の横棒2・3画目が省略され、「我」の左側が省略された**右斜めの文字**だと覚えてください。出て来る位置も、後に「に付き」であるとか、今回の「者(は)」を伴うことが多い、特徴があります。

・者(は) 変体仮名の「は」です。

「土」と左はらいのあと、「日」を「、」に省略しています。

若尾逸平書簡の内容⑤



相違之廉出来候間、何れ二而も宜敷候間、只今

・相違 「相」もよく出てきます。

「目」が相当省略されています。「打」などとの区別は、前後の文脈でも判断しましょう。「違」はしんによ
うのなか「韋」ではなく、このように「麦」のような字になる場合がありますので、覚えていきましょう。

・出来 (しゅったい) 「出」は前に触れ

ました。この「来」も癖が強く、厳しい
解読です。また、「来」は「成」に
似た書き方になることもあるので、注
意が必要です。

「来」と「成」

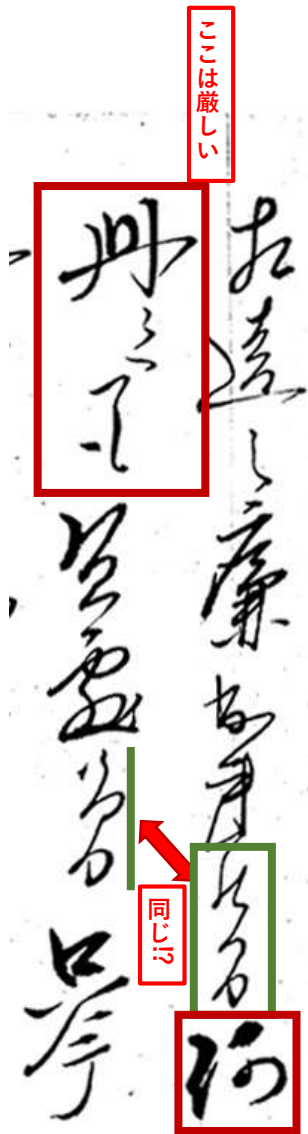
来

来 来 来 来 来
来 来 来 来 来
来 来 来 来 来

成

成 成 成
成 成 成 成 成
成 成 成 成 成

若尾逸平書簡の内容⑥



相違之廉出来候間、何

れ二而も宜敷候間、只今

・候間 前に触れた「候」とかたちが違い、「仕(つかまつり)」とも読みたいかたちですが、読み方として適切でないことと、「宜敷」の下にも同様の接続詞的な「間」を伴う「候」があり、若尾はこうしたケースではこのような「候」を書くのだと判断しました。

・何れ二而も (いずれにても) 〆〆〆も解読が難しいところです。「れ」は「礼」の変体仮名と、カタカナの「ニ」と「も」の間は癖のある「而(て)」と判断しましたが、異論が出るかもしれません。

「間」と「れ」のくずし

難しいくずしですが、このあたりでしょうか。

・れ (礼・禮)

禮 禮 禮 禮 禮 禮
れ れ れ 社 社 社
れ れ れ 社 社 社
れ 社 社 社 社 社

・間

間 間 間 間 間 間
間 間 間 間 間 間
間 間 間 間 間 間
間 間 間 間 間 間

間

「門」構えはほとんど「つ」になります。

若尾逸平書簡の内容⑦

お遠く
出で来る
宜敷
相違之廉出来候間、何
れ二而も宜敷候間、只今

相違之廉出来候間、何

れ二而も宜敷候間、只今

・宜敷 (よろしく) 何らかの依頼をする

古文書には必ず登場する語彙です。

「宜」は若尾のようにワかんむりのよ
うになるケースがあります。「敷」は
「西」や「雨」かんむりを乗せたよう
な特徴的な字で覚えやすく、若尾のよ
うに、へんから「方」を省いたパーツ
が「女」の上に完全に乗っかり、左右
構造の字が上下構造の字になっている
場合もよく見られます。

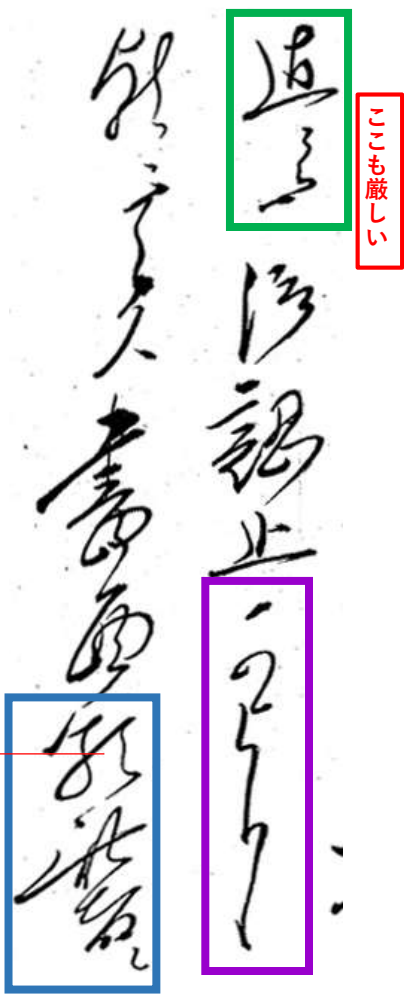
敷 敷敷 敷敷敷 敷

敷敷 敷敷敷 敷

敷 敷 敷 敷

敷 敷 敷 敷

若尾逸平書簡の内容⑧



迄二而御認止可被下候、
就而者書面願此者二

つくりは「頁」?

・迄二而 (までにて) 「二而」は前の⑥と同様です。「就而者」も同様です。

・可被下候 (くださるべくせうろう) 依頼文

に必ず出て来る表現で、文字の読み順は下(くだ)・被(さる)・可(べく)・候(せうろう)です。「ヒ」のような「被」と「下」は直結しており、このような場合「下」の横棒は省略されます。ここでは「候」もただの「、」ですね。

・願此者二 この「願」も難しく、同じ「頁」をつくりを持つ「預」も候補ですが、へんの「原」のかたちが割り合い残っている点が根拠となりました。

「願」と「預」のちがい？

・
預

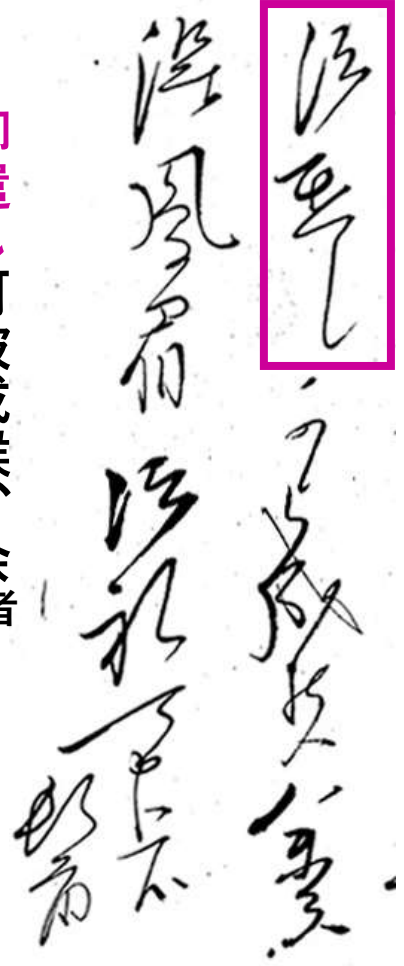
預 預 預 預 預
預 預 預 預 預
預 預 預 預 預
預 預 預 預 預
預 預 預 預 預

・
願

願 願 願 願 願
願 願 願 願 願
願 願 願 願 願
願 願 願 願 願
願 願 願 願 願

似たものツーペア

若尾逸平書簡の内容⑨



遣はし、可被成候、余者
得鳳眉御礼可申上候
頓首

御遣し可被成候、余者

得鳳眉御礼可申上候

頓首

・御遣し (おつかわし) 前述のように

「遣」はしんによろが「し」のように省略されています。この前に「此の者に」とあるので、かまえのなかは考慮せずに「遣わす」と判断しましたが、実際は、つくりのパーツの「中」の部分としんによろだけ、というところまでくずれ、ひらがなの「き」のようなかたちまでくずれている場合もあります。

遣 遣遣遣遣遣遣

遣遣遣遣遣遣

遣遣遣遣遣遣

若尾逸平書簡の内容⑩

聞いたことがない表現です。

得鳳眉御礼可申上候、余者頓首

御遣し可被成候、余者

得鳳眉御礼可申上候

頓首

・可被成 (なされるべく) 「可」も「被」も前述のとおりです。「成(なる)」・「被(される)」・「可(べき)」の順番で読みます。「成」はほとんどくずれていませんね。

・得鳳眉 (ほうびをえる?) 本来「拝眉を得る」とすべきところの上級表現でしようか。「鳳」のなかの「鳥」の字は特徴的なくずしです。他の「𠂔(れんが)」やしたごころと同様に、一本の横棒だけに省略されています。「眉」の「目」も「口」のなかの2画と最終画の横棒が一体化していますね。

「頓首」の「頓」と「拝〇」

・頓

頓頓頓頓頓
頓頓頓頓頓

・拝〇

「拝」のつく頭語・結語

【拝啓】

拝啓 承蒙 拜啓
拝而 承蒙 拜啓
お法 承蒙 拜啓
お成 承蒙 拜啓

【拝呈】

拝呈 承蒙 拜呈
拝呈 承蒙 拜呈

【拝復】

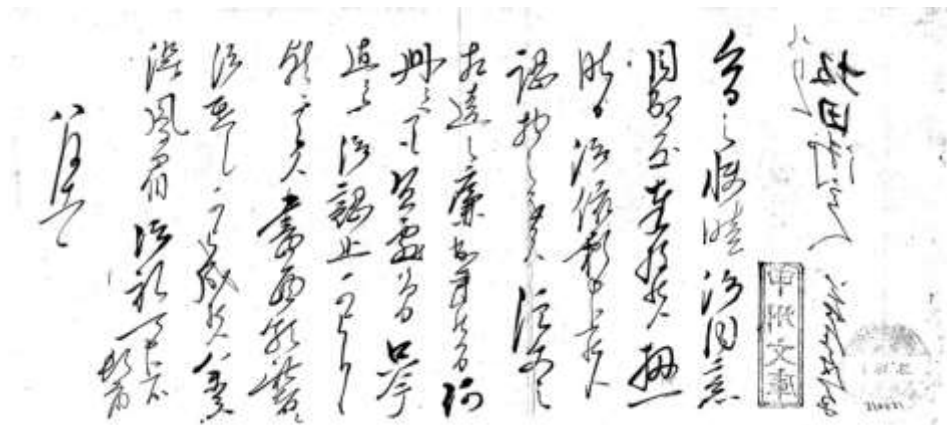
拝復 承蒙 拜復
拝復 承蒙 拜復

【拝具】

拝具 承蒙 拜具
拝具 承蒙 拜具

若尾逸平書簡の意味を取る

難しいくずし字の書簡でしたが、内容は坂田御主人（甲府の町年寄か）に何らかの書類作成について、修正点が生じたために作成の停止を要請し、この書面を持たせたものに預けてもらおうことと、次に面会した際にあとの処置と御礼を申し述べることを記したものとなっています。



今日之快晴御同意
(今日の快晴御同意)

目出度奉存候、扱一
(目出度く存し奉り候、扱て一)

昨日御依頼申上候
(昨日ご依頼申し上げ候)

認物之義者、注文之
(認め物の義は、注文の)

相違之廉出来候間、何
(相違の廉出来候間、何)

れ二而も宜敷候間、只今
(れにても宜しく候間、只今)

迄二而御認止可被下候、
(迄にて御認め止め下さるべく候)

就而者書面願此者二
(就ては書面願此の者に)

御遣し可被成候、余者
(お遣わし成さるべく候、余りは)

得鳳眉御礼可申上候
(鳳眉を得て御礼申し上げべく候)

八月十一日

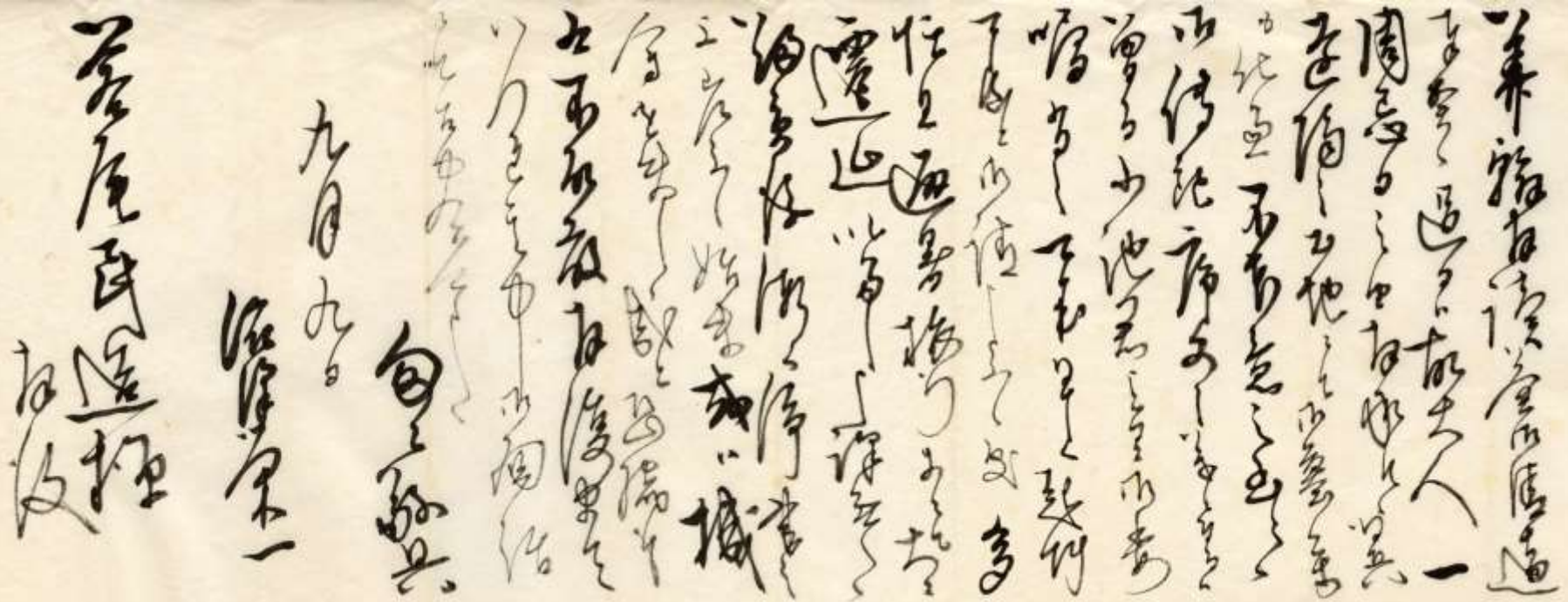
頓首

澁沢栄一書簡（若尾民造宛て）を読む

続いては大河ドラマで活躍中の澁沢栄一の書簡です。逸平に宛てたものではなく、後継ぎの民造宛てのものですが、逸平に関する重要な連絡として送られたものです。



渋沢栄一書簡（若尾民造宛て）を読む



レジユメ
の空白に
文字を書
き込んで
ください。

解読文です。

筆翰拝読益御清適

奉賀候、過日ハ故大人一

周忌日之由拝承候得共、

遠隔之土地にて御墓参

も仕兼不本意之至二候、

御伝記序文之義二付而ハ

曾而小池君より御委

嘱有之、可成早く起艸

可及と御請申上候処、多

忙且避暑旅行等にて大二

遷延いたし申訳無之候、

歸京後漸く浄書之

上差上候始末、或ハ機

会を失し候哉と恐縮仕候、

右不取敢拝復まで

いつれ其中御面話

にて右申合仕たく

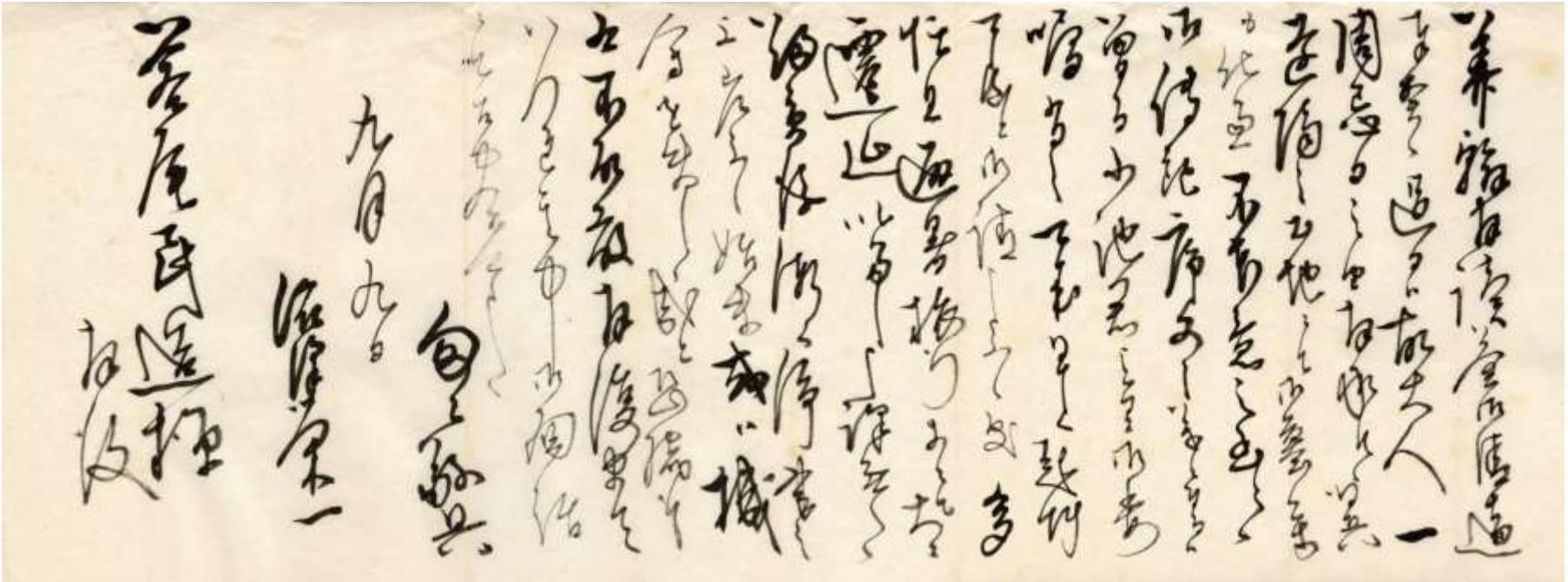
匆々敬具

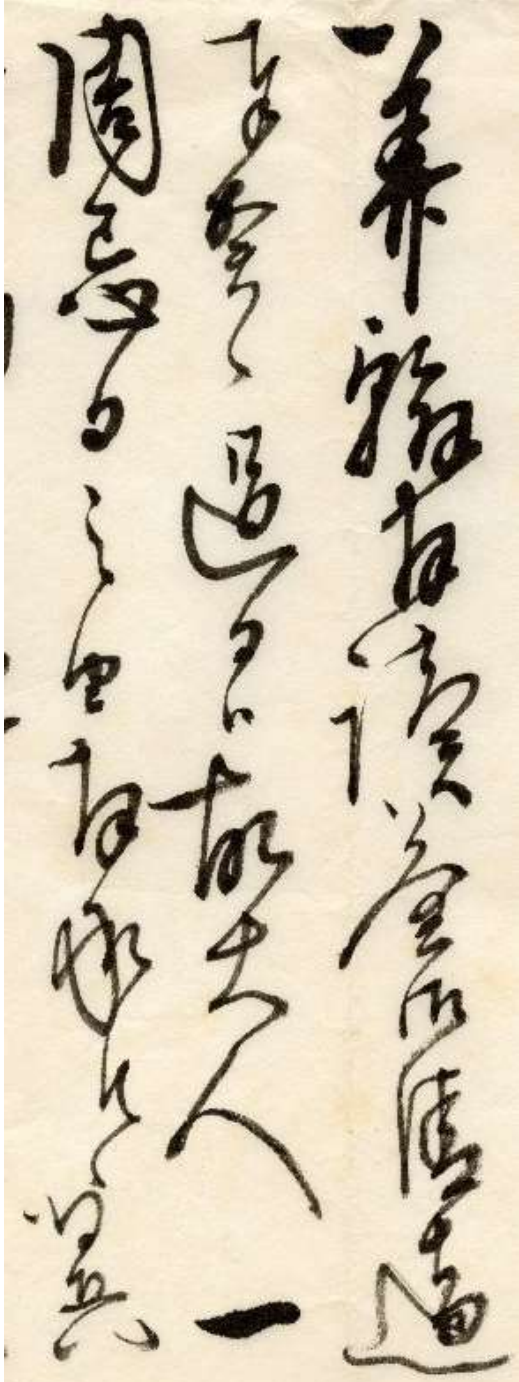
九月九日

渋澤栄一

若尾民造様

拝復





筆翰拝読益御清適
奉賀候、過日は故大人一
周忌日の由拝承そうらえども、

では、3行程度ずつ見ていきましょう。

ここの解読案は次のとおりです。

筆翰拝読益御清適

(闕字)

奉賀候、過日ハ故大人一

周忌日之由拝承候得共、

筆翰拝読ますますご清適

賀し奉り候。過日は故大人一

周忌日の由拝承そうらえども、

奉賀候、過日ハ故大人一
筆翰拝読益御清適
周忌日之由拝承候得共、

くずしもみていきましよう。

筆翰拝読益御清適

(闕字)

奉賀候、過日ハ故大人一

周忌日之由拝承候得共、

最初の「筆」からあまり見慣れないかたちをしていますね。くずしのパターンを見てみますと、竹かんむりは草かんむりにしてしまふことがありますね。「翰」は車へ

筆筆筆筆筆筆

筆筆筆筆筆筆

筆筆筆筆筆筆

筆筆筆筆筆筆

んのかたちに注目し

てください。このあ

とが「拝読」なので

「お手紙」を意味す

る語が入ると予想で

きます。

奉賀候、過日ハ故大人一
筆翰拝読益御清適
周忌日之由拝承候得共、

くずしもみていきましよう。

筆翰**拝読**益御清適

(闕字)

奉賀候、過日ハ故大人一

周忌日之由拝承候得共、

「**拝**」のつく頭語・結語

【**拝啓**】

拝啓 承候 拝啓
拝啓 承候 拝啓
相成 相成 相成
相呈 相呈 相呈
相呈

【**拝復**】

相復 相復 相復

【**拝具**】

相具 相具 相具

「**拝**」は大変よく出てくる字なので
パターンを覚えていきましよう。

「**読**」は言べんが中国語の簡体字の
ようになることや、旧字の「讀」の
くずしであることを覚えてください。

奉賀候、過日ハ故大人一
筆翰拝読益御清適
周忌日之由拝承候得共、

くずしもみていきましよう。

筆翰拝読益御清適

(闕字)

奉賀候、過日ハ故大人一

周忌日之由拝承候得共、

「益」は挨拶文の決まった位置に出てくる文字です。

「益」か「愈」のどちらかが来ると覚えてください。くずしは「皿」のように箱のなかに線が二本入るような字はかなり省略されることが見てとれるのではないでしようか。

益益益益益益

益益益益益益

益益

奉賀候、過日ハ故大人一
筆翰拝読益御清適
周忌日之由拝承候得共、

くずしもみていきましよう。

筆翰拝読益御清適

(闕字)

奉賀候、過日ハ故大人一

周忌日之由拝承候得共、

「御清適」も挨拶文の決まった位置に出てくる言葉です。くずしでは、「清」のさんずいは縦棒一本になること、「月」も「皿」などと同じで構えのなかの二画は省略されることが見て取れます。「適」はしんによろがしつかり書かれています。もっと省略される場合もあります。

清 清清清清清

清清清清清

清

奉賀候、過日ハ故大人
 周忌日之由拝承候得共、
 筆翰拝読益御清適

くずしもみていきましよう。

筆翰拝読益御清適

(闕字)

奉賀候、過日ハ故大人

周忌日之由拝承候得共、

候

候候候候候
 候候候候候
 候候候候候
 候候候候候
 候候候候候
 候候候候候
 候候候候候
 候候候候候

「奉」は「Z」のような入りとなります。「賀」は

「貝」の「目」の部分の省略の仕方にご注目ください。

「候」はほぼ点「、」だけのくずしとなります。

奉 奉奉奉奉奉

賀 賀賀賀賀賀

賀賀賀賀賀

候 候候候候候

候候候候候

候 候候候候候

候候候候候

筆翰拝読益御清適
奉賀候、過日ハ故大人一
周忌日之由拝承候得共、

くずしもみていきましよう。

筆翰拝読益御清適

(闕字)

奉賀候、過日ハ故大人一

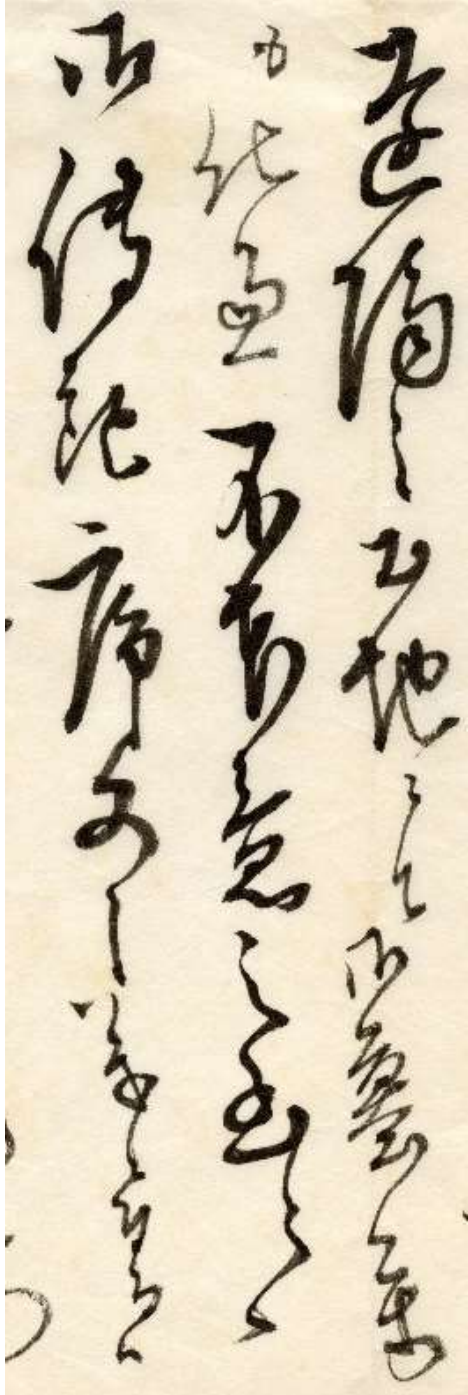
周忌日之由拝承候得共、

「過日」はしんにようが一画になっているところをご注目ください。

「拝承」の「拝」は前にも出て来ましたね。

「候得共」はくずしとしては少し難しいでしょうか。

「得」のぎょうにんべんのくずしや、「寸」の部分が「す」のようにくずす部分は、他の字を読む手がかりにもなりますので、覚えていってください。



遠隔之土地にて御墓参

次の三行の解読案は次のとおりです。

遠隔之土地にて御墓参

も仕兼不本意之至二候、

御伝記序文之義二付而ハ

遠隔の土地にて御墓参

も仕り兼ね、不本意の至りに候。

御伝記序文の義に付いては

A vertical calligraphy snippet in cursive style (sōsho) on aged paper. The characters are written in black ink and are somewhat blurred, suggesting movement or a specific focus on the text. The text appears to be a fragment of a larger document, possibly related to the '御伝記序文' mentioned in the adjacent text.

ではくずし字をみていきましよう。

遠隔之土地ニて御墓参

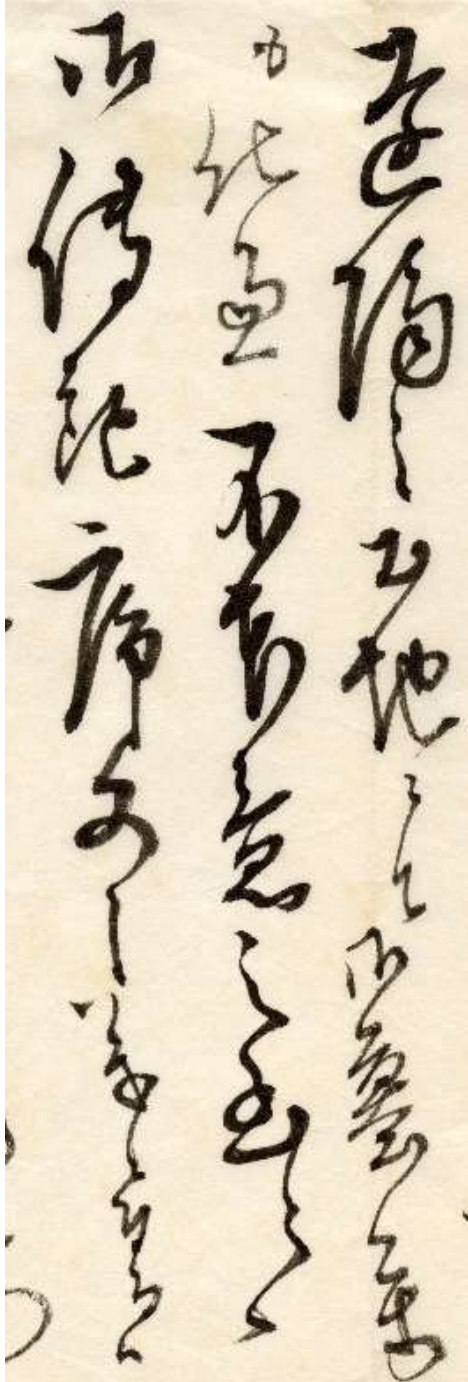
も仕兼不本意之至ニ候、

御伝記序文之義ニ付而ハ

「遠隔」は「遠」はしんにようのくずしにご注目ください。 「隔」はあまり出てこない字なので、前後関係から読めてくる字ですが、ござとへんにご注目ください。

「参」は比較的使用される字です。

「仕」もよく使われます。「兼」はくずしに特徴のある字です。個人的には「蕪」や「葱」のようにかんむりの下に構えのような画数の多い部分があって、したごころやれんがのような横棒一本で終わるというくずしに見えます。



遠隔之土地ニテ御墓参

次の三行分にいきましょう。

遠隔之土地ニテ御墓参

も仕兼**不本意**之**至**ニ候、

御伝記序文之**義**ニ**付而ハ**

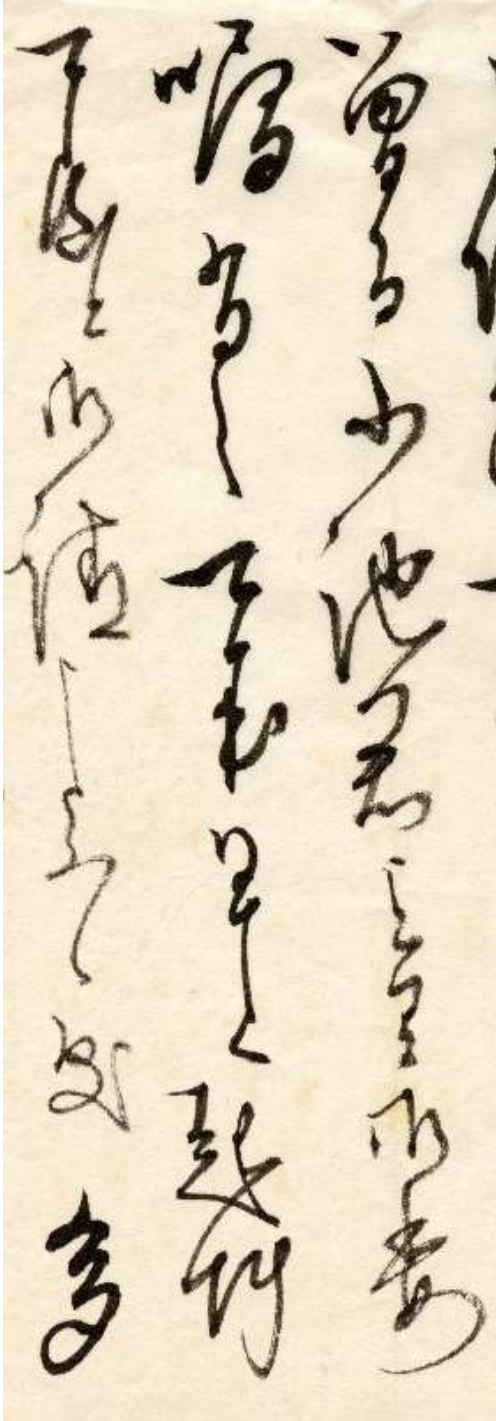
「**不本意**」の「**本**」はなんとなく読めると思いますが、「**本**」＝「**木**」＋「**一**」ではなく、「**大**」＋「**十**」のようにくずすイメージも持ってください。

「**至**」もよくでてくる字ですね。

「**伝記**」の「**伝**」は旧字の「**傳**」であることを意識して読んでください。

「**義**」もよくでてきます。このように「**戈**」の部分に引きずられて左に傾いて書かれるケースがあります。

「**付而ハ**」の「**而**」もよく使われますので形を覚えてください。



曾而小池君より御委
嘱有之、可成早く起艸
可及と御請申上候処、多
曾て小池君より御委
嘱これあり、成るべく早く起草に
及ぶべしとお請け申し上げ候ところ、多
「有之（これあり）」、「可成（なるべく）」、
「可及（およぶべく）」と返読する箇所が三つもありま
す。

次の三行分にいきましよう。

曾而小池君より御委

嘱有之、可成早く起艸

可及と御請申上候処、多

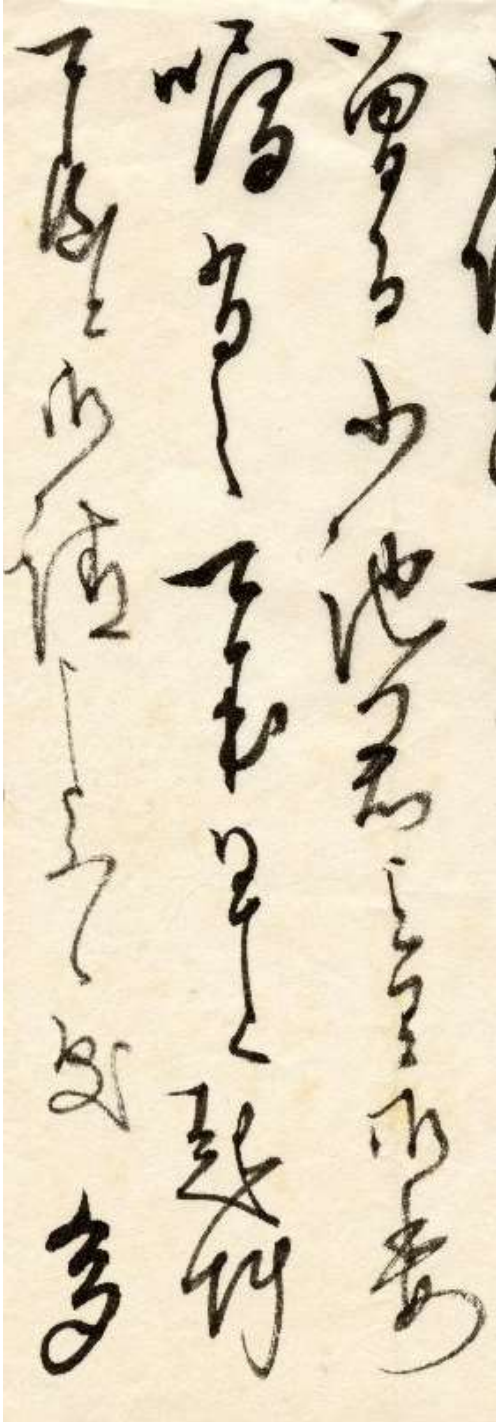
曾て小池君より御委

嘱これあり、成るべく早く起草に

及ぶべしとお請け申し上げ候ところ、多

「有之（これあり）」、「可成（なるべく）」、

「可及（およぶべく）」と返読する箇所が三つもありま
す。



くずし字をみていきます。

曾而小池君より御委

嘱有之、可成早く起艸

可及と御請申上候処、多

「曾而」の「而」は「て」と読みます。「より」は「与里」の漢字を元にした変体仮名です。「而」も「与」もよく出てくるので形を覚えていきましょう。

「委嘱」の「委」はなんとなく読めそうです。ここでは「女」という字が「め」のように書かれているところ注目しましょう。

「有之」はとてもよく出て来ます。

「有」の「月」の部分の省略について

着目してみてください。

有有有有有
有有有有有
有有有有有
有有有有有

曾而小池君より御委
嘱有之、可成早く起艸
可及と御請申上候処、多
くずし字をみていきます。

くずし字をみていきます。

曾而小池君より御委

来来来来

嘱有之、可成早く起艸

来来来来

可及と御請申上候処、多

来来来来

来来

「可成」の「可」は「マ」のようになっていますが、横棒一本と点だけのようにもなり「す」の上が飛び出さな
いようなくずしにもなります。

「成」は特別なくずしで「来」と間違えやすいので、今
回の「なるべく」などの語彙的に判別することも必要に
なります。

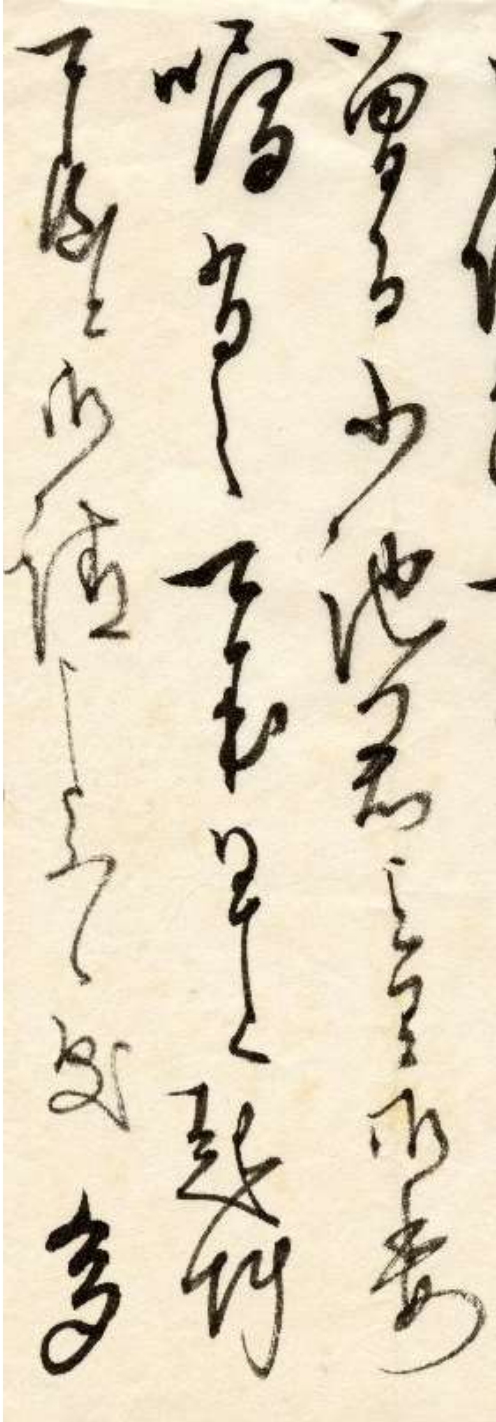
可可可可可

成成

可可可可可

成成成成

来来来来



くずし字をみていきます。

曾而小池君より御委

嘱有之、可成早く起艸

可及と御請申上候処、多

「起艸」の「艸」は通常使用しない漢字ですので、旧字と同様に覚えていただければと思います。

「可及」の「可」は一行前に出て来ましたね。

「請」は前にでてきた言べんのくずしと、「青」の「月」の部分の省略に注目してください。

「申」は「中」のようでもあり、ほぼ縦棒一本の横に点が付くだけのようにもなります。

「処」はよく使われる字なので覚えていきましょう。

忙且避暑旅行等にて大ニ
遷延いたし申訳無之候、
歸京後漸く浄書の

次の三行にいきます。

忙且避暑旅行等にて大ニ

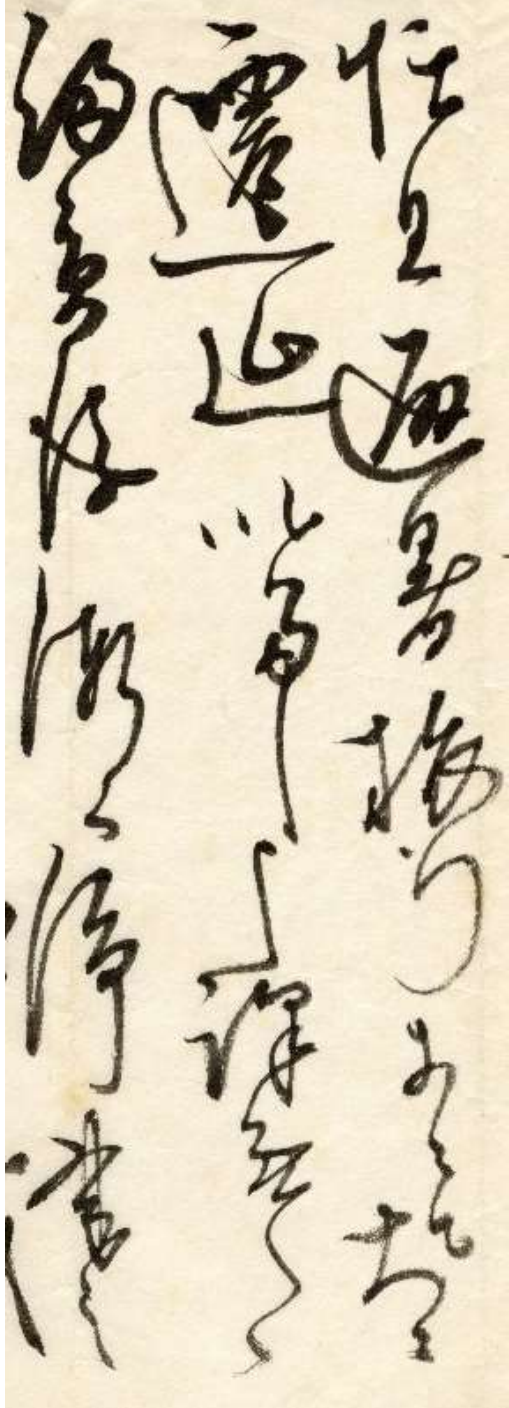
遷延いたし申訳無之候、

歸京後漸く浄書の

忙かつ避暑旅行などにて大いに

遷延いたし、申し訳これなく候。

歸京後漸く浄書の



忙且避暑旅行等二て大ニ
遷延いたし申訳無之候、
帰京後漸く浄書之

くずしをみてみましょう。

忙**且**避暑**旅行等**二て大ニ

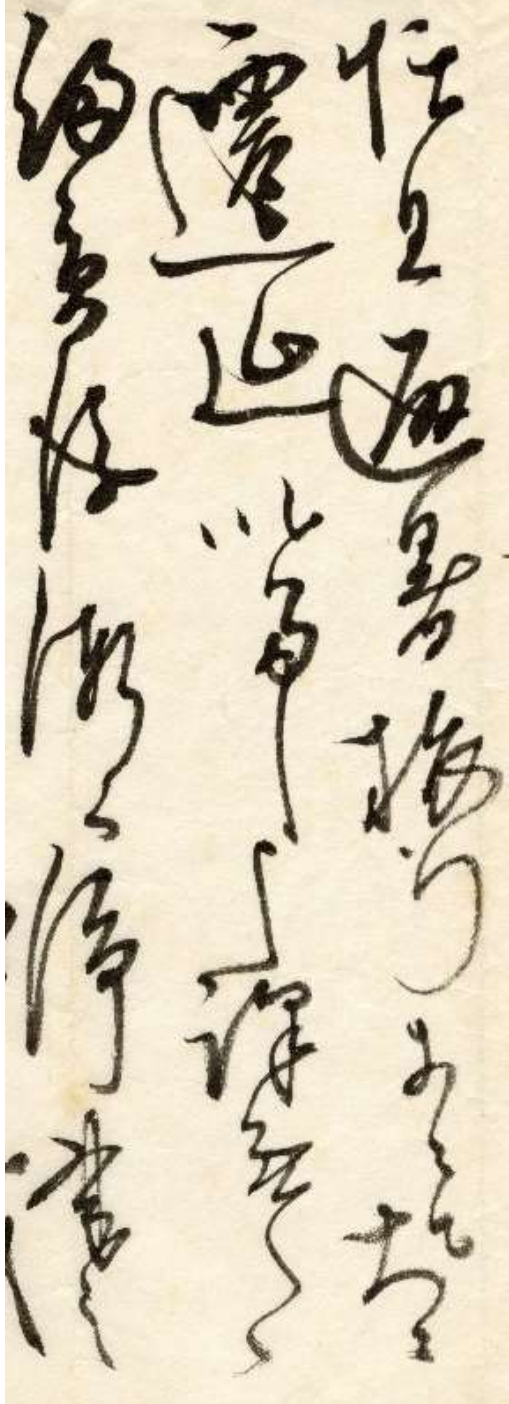
遷延いたし申訳無之候、

帰京後漸く浄書之

「**且**」は「**目**」や「**月**」、「**皿**」と同様に、かまえのなかの二画は省略されています。

「**旅行**」の「**旅**」は「**方**」のへんが手へんのように省略されています。「**行**」はまだ行にんべんのような書かれ方をしていますが、「**り**」のようにくずされてしまうことも多い字です。

「**等**」は留保を付けたいところですが、「**ホ**」のようにくずすことが多いです。



くずしをみてみましょう。

忙且避暑旅行等二て大ニ

遷延いたし申訳無之候、

歸京後漸く浄書之

「いたし」はもとの漢字に近く、「以多し」のように書かれていきます。

「申訳」の「申」は前に出て来ましたね。「訳」は旧字の「譯」のくずしだとご理解ください。

「無之」は「有之」とともによく出てくる語彙です。「無」の「れ

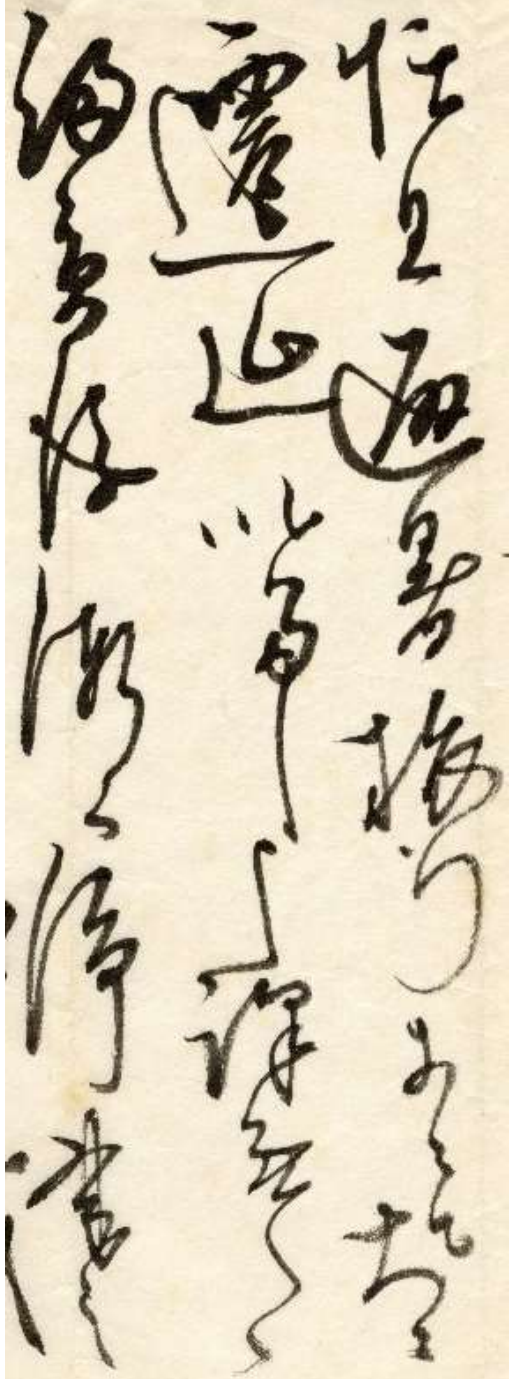
んが」は一本線になっており、

「したごころ」とともにこのよう

にくずされます。



くずしをみてみましょう。



忙且避暑旅行等二て大ニ
遷延いたし申訳無之候、

忙且避暑旅行等二て大ニ
遷延いたし申訳無之候、

帰京後漸く浄書之

「帰京後」の「帰京」を読むのは難しいかもしれませんが、特に「帰」は旧字の「歸」のくずしであることもあるのでやっかいな場合もありますし、渋沢の書く字ではへんが「リ」や「丁」のようなくずしとなる「帰」のくずしかたがにんべんや行にんべんのようになっていいるのもわかりづらいところでは。「後」も若干くせがあります。

「漸く」の「漸」は、さんずいが一本線になり、「車」のくずしかた、「斤」のくずしかたなど、パーツのくずしパターンを覚えると他の字に応用が利きます。

忙且避暑旅行等二て大二
遷延いたし申訳無之候、
帰京後漸く浄書之

くずしをみてみましょう。

忙且避暑旅行等二て大二
遷延いたし申訳無之候、
帰京後漸く浄書之

「書」という字については、他でも説明していますが、
「出」と似たくずしになるので注意が必要です。

出 出 出 出 出

書 書 書 書 書 出 出 出 出 出
書 書 書 書 書 出 出 出 出 出
出 出 出 出 出 出 出 出 出 出

A vertical strip of calligraphy in cursive style (sōsho) on aged paper. The characters are written in black ink and correspond to the printed text on the left. The characters are '上差上候始末、或ハ機'.

次の三行にいきましょう。

上差上候始末、或ハ機

会を失し候哉と恐縮仕候、

右不取敢拝復まで

上、差し上げ候始末。あるいは機

会を失し候やと恐縮仕り候。

右とりあえず拝復まで

くずしをみていきましよう。

上差上候始末、或ハ機

会を失し候哉と恐縮仕候、

右不取敢拝復まで

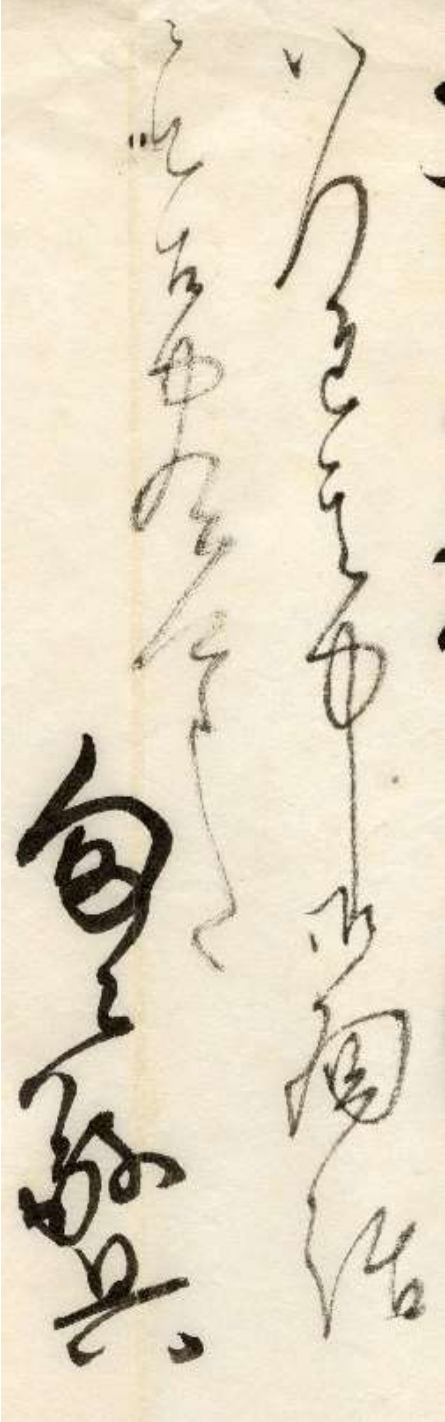
「右」の「口」は省略されています。

「不取敢」の「取」は特殊な省略のされかたもあります
が、ここでは「敢」とともに、割と原形のみえるくずし
かたになっています。いずれの「耳」も、「目」や
「月」などと同様に、かまえのなかの横棒二画は省略さ
れていることがみてとれます。

「拝復」の「拜」はよくできてきますね。「復」は行にん
べんがただの縦棒になっていることがわかります。

「まで」は、仮名の元の漢字である「末」「天」の原形
が想像できるくずしかたになっています。





最後の三行にいきましょう。

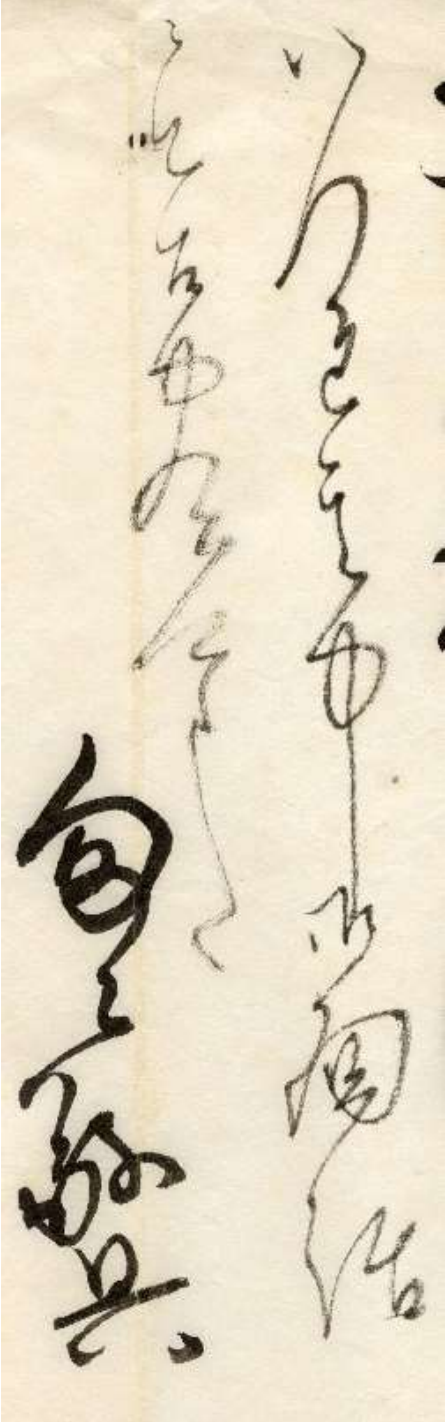
いつれ其中御面話

二て右申合仕たく

匆々敬具

いずれそのうち御面話
にて右申し合いたく

匆々敬具



くずしをみていきましよう。

いつれ其中御面話

ニて右申合仕たく

匆々敬具

「れ」は「礼」をもとにした仮名ですが、ここでは「連」をもとにした仮名が書かれています。

「其」は「者」のくずしの上に点を付けたようなくずしになります。「者」は「日」の部分が省略されつつ、今回の資料のように左に傾いたくずしになります。

「右申」と「仕」はすこし無理やりかも知れませんが。

「たく」の「た」は「多」のくずしと思われまます。

「敬具」の「具」の「目」の部分は、省略されてほとんど「口」になっていますね。

九月九日

若尾民造様

若尾民造様
拝復

日付・署名・宛名部分です。

九月九日

洪澤栄一

若尾民造様

拝復

九月九日 洪澤栄一

若尾民造様 拝復

もう一度通してみましよう。

筆翰拝読益御清適

奉賀候、過日ハ故大人一

周忌日之由拝承候得共、

遠隔之土地ニテ御墓参

も仕兼不本意之至ニ候、

御伝記序文之義ニ付而ハ

曾而小池君より御委

嘱有之、可成早く起艸

可及と御請申上候処、多

忙且避暑旅行等ニテ大ニ

遷延いたし申訳無之候、

歸京後漸く浄書之

上差上候始末、或ハ機

会を失し候哉と恐縮仕候、

右不取敢拝復まで

いつれ其中御面話

ニテ右申合仕たく

匆匆敬具

九月九日

洪澤栄一

若尾民造様

拝復

筆翰拝読益御清適

奉賀候、過日ハ故大人一

周忌日之由拝承候得共、

遠隔之土地ニテ御墓参

も仕兼不本意之至ニ候、

御伝記序文之義ニ付而ハ

曾而小池君より御委

嘱有之、可成早く起艸

可及と御請申上候処、多

忙且避暑旅行等ニテ大ニ

遷延いたし申訳無之候、

歸京後漸く浄書之

上差上候始末、或ハ機

会を失し候哉と恐縮仕候、

右不取敢拝復まで

いつれ其中御面話

ニテ右申合仕たく

匆匆敬具

九月九日

洪澤栄一

若尾民造様

拝復

通して読み下してみましよう。

筆翰拝読ますますご清適

賀し奉り候。過日は故大人一

周忌日の由拝承そうらえども、

遠隔の土地にて御墓参

も仕り兼ね、不本意の至りに候。

御伝記序文の義に付いては

曾て小池君より御委

嘱これあり、成るべく早く起草に

及ぶべしとお請け申し上げ候ところ、多

忙かつ避暑旅行などにて大いに

遷延いたし、申し訳これなく候。

帰京後漸く浄書の

上、差し上げ候始末。あるいは機

会を失し候やと恐縮仕り候。

右とりあえず拝復まで

いづれそのうち御面話

にて右申し合いたく

忽々敬具

九月九日 渋沢栄一

若尾民造様 拝復

筆翰拝読ますます清適
賀し奉り候。過日は故大人一
周忌日の由拝承そうらえども、
遠隔の土地にて御墓参
も仕り兼ね、不本意の至りに候。
御伝記序文の義に付いては
曾て小池君より御委
嘱これあり、成るべく早く起草に
及ぶべしとお請け申し上げ候ところ、多
忙かつ避暑旅行などにて大いに
遷延いたし、申し訳これなく候。
帰京後漸く浄書の
上、差し上げ候始末。あるいは機
会を失し候やと恐縮仕り候。
右とりあえず拝復まで
いづれそのうち御面話
にて右申し合いたく
忽々敬具
九月九日
渋沢栄一
若尾民造様
お返

兼頼様へ
先日は亡くなられたご主人（若尾逸平殿）の一周忌だったと承っておりますが、遠路ゆえにお墓参りもさせていだいておらず、本意の極みでございます。

御伝記の序文の件につきましてですが、以前に小池国三氏からご依頼がありまして、なるべく早く執筆するようにするという事でお引き受けしたのですが、多忙であつたり避暑旅行に出かけたりもありまして、大きく遅れてしまい、申し訳なく思っております。東京に帰ってからようやく清書のうえで提出するようなこゝとなり、もしかしたら掲載の機会に間に合わなかつたのではないかと恐縮しているところでございます。

この件について、とりあえず返信としてお送りしますが、いずれそのうち直接お会いしてお話ししたいと考えております。

九月九日

忽々敬具

若尾民造様
お返

だいたいの文意をみてみましょう。

お手紙読ませて頂きました。ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、先日は亡くなられたご主人（若尾逸平殿）の一周忌だったと承っておりますが、遠路ゆえにお墓参りもさせていだいておらず、本意の極みでございます。

御伝記の序文の件につきましてですが、以前に小池国三氏からご依頼がありまして、なるべく早く執筆するようにするという事でお引き受けしたのですが、多忙であつたり避暑旅行に出かけたりもありまして、大きく遅れてしまい、申し訳なく思っております。東京に帰ってからようやく清書のうえで提出するようなこゝとなり、もしかしたら掲載の機会に間に合わなかつたのではないかと恐縮しているところでございます。

この件について、とりあえず返信としてお送りしますが、いずれそのうち直接お会いしてお話ししたいと考えております。

忽々敬具

九月九日 洪沢栄一

若尾民造様

拝復

兼頼様にお礼の意を申上り候へども、
先日は亡くなられたご主人（若尾逸平殿）の一周忌だったと
承つてお慰め下さい。遠路のしにお墓
参りもさせていただいておらず、不
本意の極みでございます。

御伝記の序文の件につきましてです
が、以前若尾逸平氏からご依頼が
ありまして、なるべく早く執筆する
ようにするという事でお引き受け
したのですが、多忙であつたり避暑
旅行に出かけたりもありまして、大
きく遅れてしまい、申し訳なく思つ
ております。東京に帰つてからよう
やく清書のうえで提出するようにな
るとなり、もしかしたら掲載の機会
に間に合わなかつたのではないかと
恐縮しているところでございます。

この件について、とりあえず返信と
してお送りしますが、いずれそのう
ち直接お会いしてお話ししたいと考
えております。

九月九日
若尾氏造様
お返

だいたいの文意をみてみましょう。

お手紙読ませて頂きました。ますま
すぐ健勝のこととお慶び申し上げま
す。さて、先日は亡くなられたご主
人（若尾逸平殿）の一周忌だったと
承つてお慰め下さい。遠路のしにお墓
参りもさせていただいておらず、不
本意の極みでございます。

御伝記の序文の件につきましてです
が、以前若尾逸平氏からご依頼が
ありまして、なるべく早く執筆する
ようにするという事でお引き受け
したのですが、多忙であつたり避暑
旅行に出かけたりもありまして、大
きく遅れてしまい、申し訳なく思つ
ております。東京に帰つてからよう
やく清書のうえで提出するようにな
るとなり、もしかしたら掲載の機会
に間に合わなかつたのではないかと
恐縮しているところでございます。

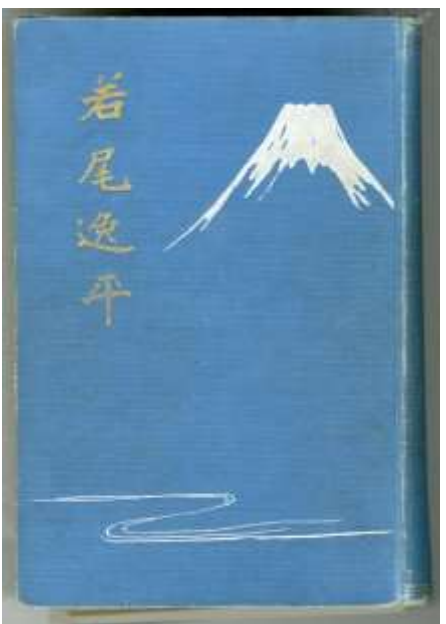
この件について、とりあえず返信と
してお送りしますが、いずれそのう
ち直接お会いしてお話ししたいと考
えております。

忽々敬具

九月九日 洪沢栄一

若尾氏造様 九月七日を過ぎている

拝復



傳記『若尾逸平』

內藤文治良 著

大正三年九月七日刊行

大正三年九月七日發行
 大正三年九月七日發行
 大正三年九月七日發行
 大正三年九月七日發行
 大正三年九月七日發行

若尾逸平發行
 總布三方
 金壹圓八拾錢
 備製金壹圓
 (製上)

山梨縣西山梨郡清田村六十五番戶

著作兼發行者 內藤文治良

東京小石川久堅町百八番地博文館印刷所

印刷者 高橋季吉

東京市日本橋區本町三丁目

發賣元 博文館



今や其人亡し、而も甲州の財豪若尾逸平翁は、星霜と共に益々其光を加へん。聊か以て序とす。

大正三年八月二十二日

内閣總理大臣 伯爵 大隈重信

序

幕末對外の社政は尊攘の志士をして
慷慨拒統せしむると云ふ一才敗壞者をして
一攫千金の念を起さしめ通商貿易我
に身を委ねる家を興へたるを一枚舉げ
違ふるに若尾逸平翁の如きは其巨擘
と云ふを得べく、公卿は甲斐の僻邑に生れ幼
より辛酸を嘗み青年の頃は肩販を以て
行商の生活と爲し、壯時乃至は資を積み

家道は不進なるが故に横濱の貿易を以て日
本騰貴の勢ありしかば翁乃ち糖を輸出
し綿糖を輸入し明治維新の後には糖
各種の合弁事業を経営し國運と共に
駁し相進し巨萬の富を致しと陶猪を凌ぐ
に至る然れども居常より之を慎みと聊か驕
を以て居るに而かも其親戚ある者も厚くし
能くこれに賑恤す是れを以て人望常に翁
より絶し明治の初めより甲府佐所戸長

と爲り縣會議事となり甲府市長となり
貴族院議員となす不測家より事業昌
へるものなり加へて天吉人を相けて九十年有る四
の高齡を躋り蓋棺至誠を以て稱せらるる
翁の人生此の如きを遺憾なきといふべし
余は掛冠の後高工業を倡導するに際し
翁と翁と交り其學業より身越えざるを以て
之を欽慕するも不文一疎翁の曾て朝鮮
に向つて事業を併ぐとを企圖して余も東

議を多しとありしに余は其時機を適せざるを切諫し之を興作を中止せしめし如きは翁の深く感激すべしとなりと爾來翁は毎に友人小對して余の志を愛することを極力贊し之を已まざるを以て此一事を以て之を公論す亦生事を更さざる苟もせしむる人の諫を用ふる流る如き禮度雅量あるを推し之を深くし今也翁春愛の諸子相得て其傳記を編むるに當り序を余に

請ふ乃ち喜むる亦素翁の對する不感を書る事不し斯の如し

大正甲寅秋 函嶺小涌谷 客 人 筆 於 上

春淵老人識



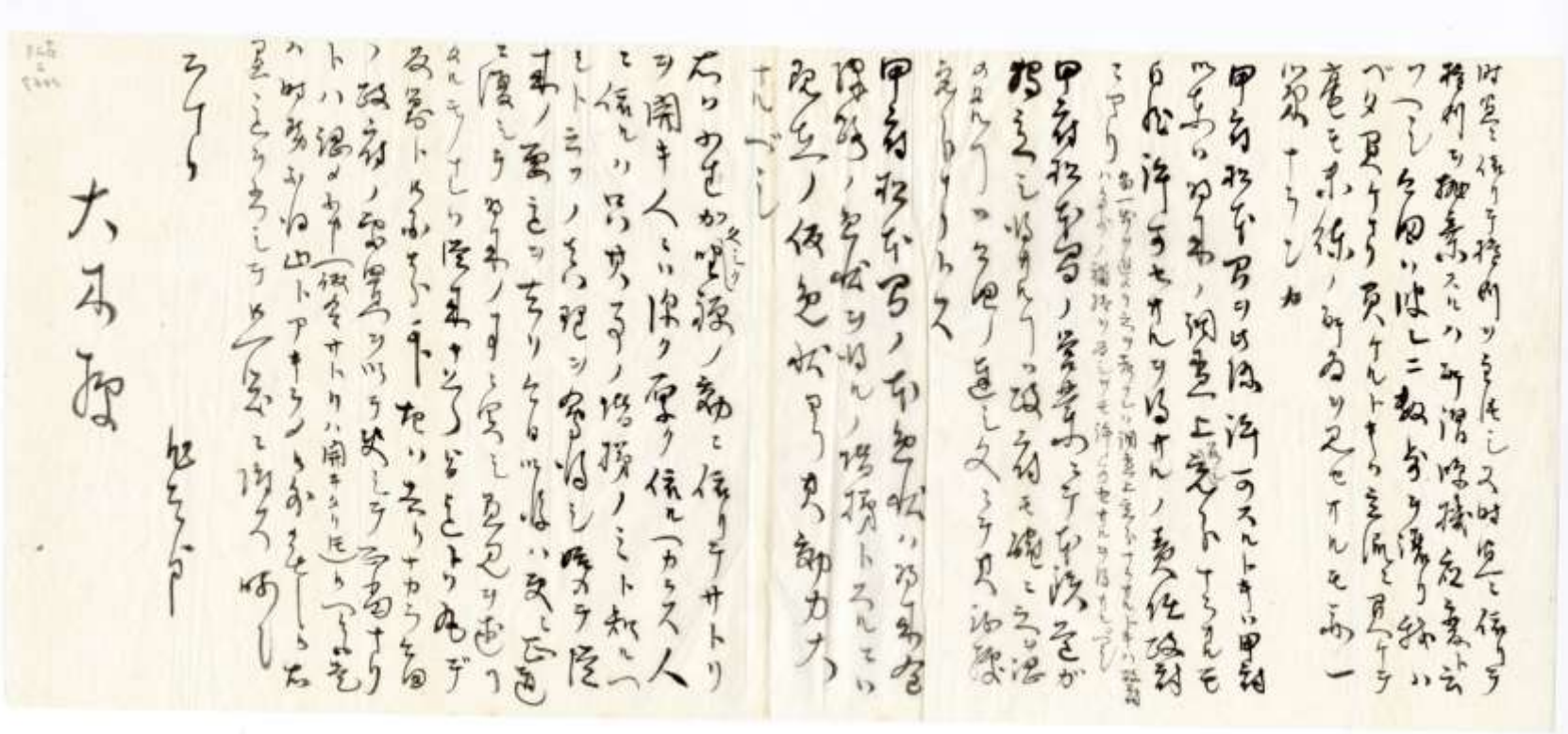
澁沢栄一書簡（若尾民造宛て）を読む



こうして、この書簡は逸平一周忌に刊行された『若尾逸平』の序文の原稿提出を詫びるものだったことが分かります。奥付けは逸平の一周忌に出たことになっておりますが、初版には澁沢の序文は間に合わなかったか、実際の刊行は遅れてしまったのではないかと思われれます。

佐竹作太郎書簡 (大木喬命宛て) を読む

最後は腕試し。くせの強い字を書く佐竹作太郎の書簡です。



此書を傳りて抄削ツを任じ不^レ時^レを傳りて
抄削ヲ御意スルハ所^レ謂^レ傳^レ抄^レを云
フコト也勿^レハ二^レ數^レナリ傳^レり抄^レハ
ハ父^レ君^レナリ負^レケルトキ^レを傳^レと云^レケテ
卷^レモ未^レ練^レノ所^レ有^レリ足^レセ^レル也一
ハ^レ有^レルコトナシカ

甲^レ有^レ抄^レ不^レ可^レハ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
ツ^レコト^レハ^レ有^レル^レノ^レ傳^レ意^レ上^レ覺^レク^レト^レキ^レモ
自^レ心^レ傳^レ可^レセ^レル^レハ^レ傳^レノ^レ意^レ任^レ政^レ封
コ^レナリ 第一抄ヲ抄スルコトヲ傳^レノ^レ意^レ任^レ政^レ封
ハ^レ有^レル^レノ^レ傳^レ意^レ任^レ政^レ封
甲^レ有^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ

甲^レ有^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ

右^レの^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ
抄^レ之^レ抄^レ不^レ可^レハ^レ傳^レ一^レの^レス^レト^レキ^レ甲^レ有^レ

旭

大分

読めるところから読んでいきましよう。

附寫を傳りて權利ヲ行使し不^レ時宜^ニ依^リテ
權利ヲ拋棄スルハ所謂臨機應^レ変ト云
フヘシ、今回ハ彼レニ數歩ヲ譲^リ我ハ
ベタ負ケナリ、負ケルトキハ立派ニ負ケテ
毫モ未練ノ所為ヲ見セサルモ亦一
策ナランカ

甲府松本間ヲ此俟許可スルトキハ甲府
以東ハ将来ノ調査上若シ充分ナラサルモ
自然許可セサルヲ得サルノ責任政府
ニアリ、尚一步ヲ進メテ之ヲ考フレハ調査上充分ナラサルトキハ
政府ハ多少ノ補給ヲ為シテモ許可セサルヲ得サルベシ
甲府松本間ノ營業ニテ本鉄道ガ
独立シ得サルヲハ政府モ確ニ之ヲ認
メタルヲハ今回ノ達シ文ニテ其証拠
充分ナリトス。

甲府松本間ノ本免状ハ将来全
線路ノ免状ヲ得ルノ階梯トスルニハ
既存ノ仮免状ヨリ其効力大
ナルベシ。

右ハ小生ガ久シク坐禪ノ効ニ依^リテサトリ
ヲ開キ人ニハ深く厚ク依ルヘカラス、人
ニ依ルハ只其事ノ階梯ノミト知ルヘ
シト云フト真理ヲ會得シ始メテ從
来ノ惡意ヲ去^リ今日以後ハ更ニ正道
ニ復シテ将来ノ事ニ関シ愚見ヲ述ヘ
タルモノナレハ從來申上候旨意トハ丸デ
反対ト御承知可被下候、左ハ去^リナカラ今回
ノ政府ノ処置ヲ以テ決シテ正當ナリ
トハ認め不申(仮令サトリハ開キタリトモ)
候へとも是
ハ時勢不得止トアキラメ候外無之候、右
愚意ヲ書シテ御一笑ニ附ス可し

大木様

旭

解説案は次の通りです。

時宜ニ依^リテ權利ヲ主張シ又時宜ニ依^リテ
權利ヲ拋捨スルハ所謂臨機應^レ変ト云
フヘシ、今回ハ彼レニ數歩ヲ譲^リ我ハ
ベタ負ケナリ、負ケルトキハ立派ニ負ケテ
毫モ未練ノ所為ヲ見セサルモ亦一
策ナランカ。
甲府松本間ヲ此俟許可スルトキハ甲府
以東ハ将来ノ調査上若シ充分ナラサルモ
自然許可セサルヲ得サルノ責任政府
ニアリ、尚一步ヲ進メテ之ヲ考フレハ調査上充分ナラサルトキハ
政府ハ多少ノ補給ヲ為シテモ許可セサルヲ得サルベシ
甲府松本間ノ營業ニテ本鉄道ガ
独立シ得サルヲハ政府モ確ニ之ヲ認
メタルヲハ今回ノ達シ文ニテ其証拠
充分ナリトス。
甲府松本間ノ本免状ハ将来全
線路ノ免状ヲ得ルノ階梯トスルニハ
既存ノ仮免状ヨリ其効力大
ナルベシ。
右ハ小生ガ久シク坐禪ノ効ニ依^リテサトリ
ヲ開キ人ニハ深く厚ク依ルヘカラス、人
ニ依ルハ只其事ノ階梯ノミト知ルヘ
シト云フト真理ヲ會得シ始メテ從
来ノ惡意ヲ去^リ今日以後ハ更ニ正道
ニ復シテ将来ノ事ニ関シ愚見ヲ述ヘ
タルモノナレハ從來申上候旨意トハ丸デ
反対ト御承知可被下候、左ハ去^リナカラ今回
ノ政府ノ処置ヲ以テ決シテ正當ナリ
トハ認め不申(仮令サトリハ開キタリトモ)
候へとも是
ハ時勢不得止トアキラメ候外無之候、右
愚意ヲ書シテ御一笑ニ附ス可し

二十日 大木様 作太郎

財を借りて稼利ツを任じず時を待て借りて
稼利ヲ抽素スルノ所滑降接産を素ト云
フコト今由リは二数分ヲ渡リ給ハ
ベタ負ケテ負ケルトモ之流を引ケテ
産を未練ノ所あり足せせんを引一
引給ハコトシカ

甲府松本間を以て河津一ツのストキに甲府
ツギのゆき、河津上流に下ツルモ
自由津河津セキル河津セキノ責任政府
コアリ 第一河津河津セキノ河津セキノ責任は甲府松本間に在リ

甲府松本間を以て河津一ツのストキに甲府
ツギのゆき、河津上流に下ツルモ
自由津河津セキル河津セキノ責任政府
コアリ 第一河津河津セキノ河津セキノ責任は甲府松本間に在リ

甲府松本間を以て河津一ツのストキに甲府
ツギのゆき、河津上流に下ツルモ
自由津河津セキル河津セキノ責任政府
コアリ 第一河津河津セキノ河津セキノ責任は甲府松本間に在リ

石のわきか噴源ノ筋に依リテサトリ
ツ開キ人ニ以テク原ク依レカラス人
ニ依リテ只其ノノ階級ノ之ト知レ
トトテツノモ理ヲ寄付シ候方テ
其ノ要ニヨリテ其ノ之ハ其ノ之
ト依リテ其ノ之ハ其ノ之ハ其ノ之
及答トモ其ノ之ハ其ノ之ハ其ノ之
ノ政府ノ其ノ之ハ其ノ之ハ其ノ之
トハ其ノ之ハ其ノ之ハ其ノ之ハ其ノ之
ハ其ノ之ハ其ノ之ハ其ノ之ハ其ノ之
其ノ之ハ其ノ之ハ其ノ之ハ其ノ之

大木様

文意の解釈は次の通りです。

タイミングによって権利を主張し、また
場合によっては権利を放棄するのは、い
わゆる臨機応変ということである。(と
はいえ)今回は彼(政府)に数歩も譲り、
我々はベタ負けである。負けるときは見
事に負けて、少しも未練の振る舞いを見
せないというのも、また一つの策かもしれ
ない。

(政府が)甲府松本間をこのまま許可す
る時は、甲府以東は将来の(経営見込み
の)調査がもしも十分でなかったとして
も、当然許可を出さざるを得ない責任が
政府にあるのだ。

(考えをなお一步進めてみれば、調査で
十分でないとなった場合、政府は多少の
支援をしても許可をしないわけにはい
かない。)

甲府松本間の営業だけで甲信鉄道が経営
が成り立たないことは政府もしつかりこ
れを認めており、この事は今回の通知文
においてその十分な証拠と見なすことが
できる。

甲府松本間の免許状は、将来御殿場・甲
府・松本間全線の免許状を得る上でのス
テップとするうえで、現在得ている仮
免許状よりもその効果は大きいといえる。
今回のことは、私が随分前から、坐禅の
成果として悟りを開くべきであり、他人
へ強く頼ってはいけない、人に頼るのは、
ただ悟りを開く上でのステップに過ぎな
いと考えるべきという真理をわが物にし
たことによって、初めてこれまでの悪い
気持ちを忘れて、今日から更に正しい道
へと戻って将来のことについての考えを
述べられるようになったわけなので、こ
れまで申し上げて来た内容とはまるで反
対のことだご承知頂ければと思う。

とはいえ、今回の政府の処置は決して正
しいものとは認めるわけではなく(たと
え悟りを開いたとしても)、これは現在の
情勢では止むを得ないとあきらめるほ
かはないと、右のような考えを記したので
ご笑覧いただければと思う。

此を傳へりて所ノツを此し不^レ時^ニ傳へ^レ傳へ^レテ
所^ノ利^ヲ御^ノ素^スル^ノ所^ヲ滑^ル滑^ル接^ス接^スを^ト云
つ^レし^レを^レ傳^へり^レは^レし^レ二^三數^ノ分^ヲ傳^へり^レ給^ハい
べ^ク也^レ其^レケ^レリ^テ負^ケル^トキ^レハ^レ主^ノ偏^ト負^ケテ
産^モ未^レ練^ノ所^ニ有^リ足^セテ^レん^ト也^一
此^ノ所^ニテ^レシ^カ

甲^府府^ノ知^事官^ノ官^ニ出^向ス^ル所^ノ事^トキ^ハ甲^府
ツ^クル^ノ所^ニテ^レハ^レ御^意上^ニ覺^ケテ^レテ^レん^トモ
自^心決^テテ^レセ^テん^トハ^レん^ト也^一其^レ任^任政^政
コ^ノア^リ 一甲府知事官ノ官ニ出向スル所ノ事トキハ甲府ツクル所ニテハ御意上ニ覺ケテテレんトモ自心決テテレセテんトハレんト也一
甲^府府^ノ知^事官^ノ官^ニ出^向ス^ル所^ノ事^トキ^ハ甲^府
ツ^クル^ノ所^ニテ^レハ^レ御^意上^ニ覺^ケテ^レテ^レん^トモ
自^心決^テテ^レセ^テん^トハ^レん^ト也^一其^レ任^任政^政

甲^府府^ノ知^事官^ノ官^ニ出^向ス^ル所^ノ事^トキ^ハ甲^府
ツ^クル^ノ所^ニテ^レハ^レ御^意上^ニ覺^ケテ^レテ^レん^トモ
自^心決^テテ^レセ^テん^トハ^レん^ト也^一其^レ任^任政^政

右^ノ如^ク也^一其^レ任^任政^政
ツ^クル^ノ所^ニテ^レハ^レ御^意上^ニ覺^ケテ^レテ^レん^トモ
自^心決^テテ^レセ^テん^トハ^レん^ト也^一其^レ任^任政^政

大木喬

この書簡が書かれた背景は次の通りです。

この資料は、若尾逸平ら山梨県や長野県などの有志が、甲信鉄道という鉄道を建設しようとした際の書簡となります。

甲信鉄道は、当時の東海道線（現在の御殿場線）の御殿場駅から甲府、松本を目指す鉄道でしたが、資金面や技術面から、国は甲府・松本間の許可しか与えず、東京と山梨を鉄道でつなぐという点で肝心な御殿場・甲府間は許可が得られませんでした。

この書簡は、ちょうど国の不許可があった頃に、若尾逸平の重要な「幕僚」でもあり、パートナーであった佐竹作太郎が、甲信鉄道の発起人同志である大木喬命に宛てて書いたもので、佐竹のやるせない思いが滲みわたるものとなっています。

お疲れさまでした。(´Д`)ノ~~オツカレ



伝記『若尾逸平』より



くずし字との格闘お疲れさまでした。
最後の佐竹作太郎書簡も、いずれ講座
のなかで丁寧な解説する機会を設けて
いきたいと思えます。

若尾の生きた時代の資料は、個人の癖
が強くて読みづらいものが多いので
が、さまざまな個性をおもしろいと考
えることもできますし、内容が分かる
と理解しやすい側面もあります。

誕生200年 若尾逸平

シンボル展

金儲けは、発明が、性に關る。

発明は学問がなければ、容易なことではない。

株は運と氣合だ。

苦し、株を買ふなら、得率性のあるものでなければ置かない。

それは、『乗りもの』と『あかり』だ。

この先、世がドウ変化しやうとも、

『乗りもの』と『あかり』だけは必ず盛にこそなれ、衰へる心配はない。

『根津節伝』より

わかおいっぺい

しっかりマスクを！

伝記『若尾逸平』より



←はなれて！→
ソーシャルディスタンス

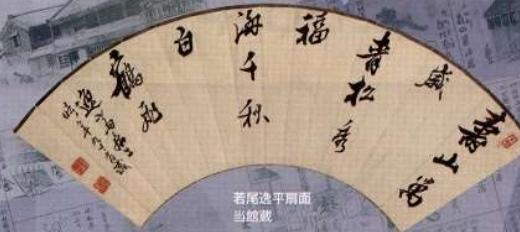
山梨県立博物館
Yamanashi Prefectural Museum

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1 電話055-261-2631



山梨県立博物館 シンボル展

誕生200年



若尾逸平兩面
当館蔵



若尾逸平一代團扇
南アルプス市立美術館蔵

2021
5/22(土)
~ 6/28(月)

※ご来館時はマスク着用など新型コロナウイルス感染予防対策にご協力ください。
また、状況によっては入館制限を行うことがあります。

山梨県立博物館
Yamanashi Prefectural Museum

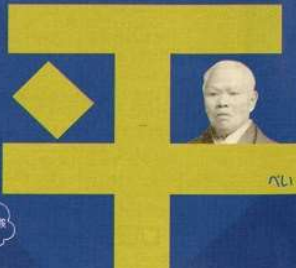
休館日 毎週火曜日
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
主催 山梨県立博物館
観覧料 常設展観覧料でご覧いただけます。
一般520(420)円 大学生220(170)円
●65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)、小・中・高・特別支援
学校等の児童・生徒は無料です。
●6ヶ月以内の誕生日の団体、県内のホテルや旅館に当日の前日に宿泊する方を対象とした割引料金です。
●無料、割引の対象となる方は、それぞれ証明できるものを提示ください。
●購入日から何年でも観覧できる年間パスポート(一般2,100円、大学生1,050円)もございます。



若尾家の家紋入りの記念盃
当館蔵



若尾逸平が使用した基盤
当館蔵



背景・甲府繁盛寿延久 当館蔵



展覧会情報
はこちら

おわりに

昨年中止となった際に自作した若尾逸平展のポスターと、今年開催することができた本展のちらしの画像をみていただきましたが、おかげさまでなんとか逸平生誕二〇〇年のご紹介をすることができました。

コロナ禍でたいへんななかですが、こうした大きな歴史の流れのなかで、私たちは生き抜いていかねばならない境遇であることを思うと、先人たちの苦悩や選択から学ぶ価値は、大変大きい物があるのではないかと思います。

逸平が生きた明治、そして私たちが生まれた昭和時代もいまや「歴史」の一部となりました。現在の私たちの生きている時代も「歴史」としてみつめられる時代がやってきます。こうした

「歴史」の資料を大切にして、後世に引き継いでいくことは、私たちの重要な使命だといえるのではないのでしょうか。逸平生誕から二〇〇年、逸平らが築いた「近代」という時代を振り返り、これからの社会や価値を考える、そのような契機としていただければと考えます。



ぜひシンボル展ももう一度ご覧ください。



先着十名程度までですので、ご参加される方は、観覧券をお求めのうえ、シンボル展開場までお越しく下さい。

を開催いたします。

シンボル展「生誕2000年 若尾逸平」
ギャラリートーク

六月二十六日(土)
午後三時～(一時間程度)

山梨県立博物館シンボル展

若尾逸平扇面
当館蔵

若尾逸平一代図屏風
南アルプス市立美術館蔵

若尾家が使用した茶盤
当館蔵

2021
5/22(土)
～6/28(月)

山梨県立博物館
Yamanashi Prefectural Museum

休館日 毎週火曜日
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
主催 山梨県立博物館
観覧料 常設展観覧料でご覧いただけます。
一般520(420)円 大学生220(170)円
●65歳以上の方、障害者の方(お4びその介護をされる方)、小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料です。
●()内は20名以上の団体、県内のホテルや旅館に当日か前日に宿泊する方を対象とした割引料金です。
●無料、割引の対象となる方は、それぞれ証明できるものをご提示ください。
●購入日から何日でも観覧できる年間パスポート(一般2,100円、大学生1,050円)もございます。

青葉・甲府繁盛壽延久 当館蔵

観覧券情報はこちら

先着三十名までですので、早めにご来場ください。

講師 小畑茂雄（学芸員）

「若尾逸平像の再構築」

「伝記資料からみる
かいじあむ講座」

午後一時三十分～三時（午後一時開場）

六月二十七日（日）

山梨県立博物館 311ホール展

若尾逸平扇面
当館蔵

若尾逸平一代図屏風
南アルプス市立美術館蔵

若尾逸平が使用した茶盤
当館蔵

若尾家の家紋入りの記念盃
当館蔵

2021
5/22(土)
～ 6/28(月)

山梨県立博物館
Yamanashi Prefectural Museum

休館日 毎週火曜日
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
主催 山梨県立博物館
観覧料 常設展観覧料でご覧いただけます。
一般520(420)円 大学生220(170)円
●65歳以上の方、障害者の方(お4びその介護をされる方)、小・中・高・特別支援
学校等の児童・生徒は無料です。
●()内は20名以上の団体、館内のホテルや旅館に当日か前日に宿泊する方を対象とした割引料金です。
●無料、割引の対象となる方は、それぞれ証明できるものをご提示ください。
●購入日から何日でも観覧できる年間パスポート(一般2,100円、大学生1,050円)もございます。

QRコード

観覧料情報
はこちら

青森・甲府県経典書目久 当館蔵

渋沢栄一と山梨の近代人物たち

― 杉浦譲から青い目の人形まで ―



渋沢栄一（個人蔵）

日本の近代化に重要な役割を果たした、いま注目の渋沢栄一。この渋沢とともにフランスに渡った甲府出身の杉浦譲は、日本の郵便制度を実現し、今年で150年になります。今回の講座では、渋沢と杉浦の友情をはじめ、甲州財閥や日本初の地下鉄、「青い目の人形」など、渋沢と山梨の多くの関わりについてご紹介いたします。



杉浦譲



渋沢が執筆した『若尾逸平』の序文



開通時の地下鉄入口（個人蔵）

■日 時：令和3年 6月19日（土）
13：30～15：00（受付13：00より）

■講 師：小畑茂雄さん（山梨県立博物館学芸員）

東京都生まれ
中央大学大学院文学研究科博士前期課程修了

■会 場：山梨県庁舎別館3階「正庁」

■定 員：20名（定員になり次第締め切り）

■対 象：どなたでも ■受講料：無料

■申込み：TEL・FAX・MAILにてお申込みください

※必ず、事前のお申込みをお願いします。お申込みの際に氏名・お住まいの市町村名・ご連絡先をお伝えください。

―新型コロナウイルス感染拡大防止についてのお願い―

- ・平熱より1度以上高い発熱がある方、その他体調不良の方は受講をご遠慮ください。
- ・必ずマスクを着用し、入館時には備え付けの消毒液で手指の消毒をお願いします。

第13回展示「海外との懸け橋となった人々」好評開催中

山梨近代人物館

The Museum of MODERN YAMANASHI HISTORICAL FIGURES

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1
TEL: 055-231-0988 FAX: 055-231-0991
(HP) <https://www.pref.yamanashi.jp/ykj>
(MAIL) y-jinbutukan@yamanashi-bunka.or.jp

山梨県庁構内図 愛称：オープンガーデンやまなし



Facebook ホームページ

「山梨近代人物館」で検索！

「フォロー」すると最新情報が受け取れます。

七月十八日（日）

午後一時三十分～三時

山梨近代人物館教育普及講座

「渋沢栄一と山梨の近代人物たち

― 杉浦譲から青い目の人形まで ―

講師 小畑茂雄（山梨県立博物館学芸員）

予約申し込み制で定員二十名までですので、
早めにお申込みください。



山梨近代人物館の展示もぜひご覧ください。



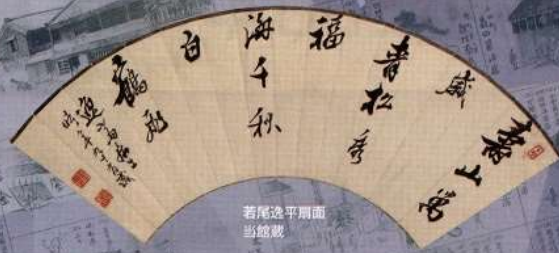
若尾

山梨県立博物館 ミニマル展

生誕200年

逸

平



若尾逸平扇面
当館蔵



若尾逸平一代図屏風
南アルプス市立美術館蔵



若尾逸平が使用した葎盤
当館蔵



若尾家の家紋入りの記念盃
当館蔵



平

長時間にわたり
ご聴講おつかれさまでした。

2021
5/22(土)
~ 6/28(月)

※本館時はマスク着用など新型コロナウイルス感染症拡大予防対策にご協力ください。
また、状況によっては入館制限等を行うことがあります。

山梨県立博物館
Yamanashi Prefectural Museum

休館日 毎週火曜日
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
主催 山梨県立博物館
観覧料 常設展観覧料でご覧いただけます。
一般520(420)円 大学生220(170)円

- 65歳以上の方、障害者の方(お4びその介護をされる方)、小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料です。
- ()内は20名以上の団体、館内のホールや涼廊に当日か前日に宿泊する方を対象とした割引料金です。
- 無料、割引の対象となる方は、それぞれ証明できるものをご提示ください。
- 購入日から何日でも観覧できる年間パスポート(一般2,100円、大学生1,050円)もございます。

青葉・甲府繁盛寿鏡呂久 当館蔵



観覧金情報はこちら